

- 13) Klatser PR, van Beers SM, Madjid B, Day R, de Wit MYL: Detection of *Mycobacterium leprae* nasal carriers in populations for which leprosy is endemic. *J Clin Microbiol* 31: 2947-2951, 1993
- 14) Matsuoka M, Maeda S, Kai M, Nakata N, Chae GT, Gillis TP, Kobayashi K, Izumi S, Kashiwabara Y. *Mycobacterium leprae* typing by genomic diversity and global distribution of genotypes. *Int J Lepr Other Mycobact Dis* 68: 121-128, 2000
- 15) Monot M, Honoré N, Garnier T, Zidane N, Sherafi D, Paniz-Mondolfi A, Matsuoka M, Taylor GM, Donoghue HD, Bouwman A, Mays S, Watson C, Lockwood D, Khamispour A, Dowlati Y, Jianping S, Rea TH, Vera-Cabrera L, Stefani MM, Banu S, Macdonald M, Sapkota BR, Spencer J, Thomas J, Harshman K, Singh P, Busso P, Gattiker A, Rougemont J, Brennan PJ, Cole ST: Comparative genomic and phylogeographic analysis of *Mycobacterium leprae*. *Nature Genetics* 41: 1282-1289, 2009
- 16) Douglas Y: Proposal for molecular epidemiology of leprosy. *Lepr Rev* 74: 11-17, 2003.
- 17) Cho SN, Kim SH, R. Cellona V, Chan GP, Fajardo TT, Walsh GP, Kim JD: Prevalence of IgM antibodies to phenolic glycolipid I among household contacts and controls in Korea and the Philippines. *Lepr Rev* 63: 12-20, 1992.
- 18) Trankar RP, Lavania M, Singh M, SivaSai KRSDR, Jadhav RS: Dynamics of *Mycobacterium leprae* transmission in environmental context: Deciphering the role of the environment as a potential reservoir. *Infect Genet Evol* 12:121-126, 2012
- 19) Noordeen SK: The epidemiology of leprosy, pp. 29-45. *In* R. C. Hastings (ed.) *Leprosy*. Churchill Livingstone, New York, N.Y. 1994
- 20) Fine PE, Sterne JM, Ponnighaus JM, Bliss L, Sauti J, Chihana A, Munthali M, Warandorff DK: Household and dwelling contacts as risk factors for leprosy in northern Malawi. *Am J Epidemiol* 146: 91-102, 1997
- 21) de Vries RRP, Ottenhoff TH: Immunogenetics of leprosy, pp. 113-121. *In* R. C. Hastings (ed.), *Leprosy*. Churchill Livingstone, New York, N.Y. 1994
- 22) Zhang L, Budiawan T, Matsuoka M: Diversity of potential short tandem repeats in *Mycobacterium leprae* and application for Molecular typing. *J Clin Microbiol* 43: 5221-5229, 2005
- 23) Matsuoka M, Lopez R, Budiawan T, Kyaw K, Chae GT: Genotypic analysis of *Mycobacterium leprae* isolates from Japan and other Asian countries reveals global transmission pattern of leprosy. *FEMS Microbiol Letter* 261: 150-154, 2006
- 24) Kerr-Pontes LRS, Barreto ML, Evagelista CMN, Rodrigues LC, Heukelbach J, Feldmeier H: Socioeconomic, environmental, and behavioral risk factors for leprosy in Northeast Brazil: results of a case-control study. *Int J Epidemiol* 35: 994-1000, 2006

# 未感作 T 細胞を強く活性化するウレアーゼ欠損 HSP70-MMP-II 融合蛋白産生性リコンビナント BCG の作出

牧野正彦\*、向井 徹

国立感染症研究所ハンセン病研究センター感染制御部

[受付・掲載決定：2012年5月17日]

キーワード：ハンセン病、リコンビナント BCG、ワクチン、MMP-II 抗原、T 細胞

## はじめに

らい菌に対する生体防御反応は、インターフェロンガンマ（interferon gamma, IFN- $\gamma$ ）産生性タイプ1 CD4 陽性 T 細胞とタイプ1 CD8 陽性 T 細胞によって営まれている。これらの T 細胞の活性化は、らい菌あるいはらい菌由来抗原を取り込んだ樹状細胞（dendritic cell, DC）との相互作用によって誘導される。樹状細胞が効率的に T 細胞を活性化するためには、らい菌由来の主要抗原が効率的に用いられる必要があるが、らい菌の主要抗原の一つとして我々は major membrane protein (MMP)-II (Gene name, *bfrA* or ML2058) を同定し報告してきた。MMP-II は、toll like receptor (TLR2) に結合する能力を有し NF- $\kappa$ B を活性化する<sup>1)</sup>。そのため、MMP-II 蛋白をパルスした樹状細胞は抗原特異的に未感作及びメモリータイプ CD4 陽性 T 細胞及び CD8 陽性 T 細胞を活性化する<sup>1)</sup>。さらに、MMP-II は少菌型ハンセン病患者では末梢 T 細胞によって認識され得る蛋白であることも判明している<sup>2)</sup>。一方で、WHO が推奨する MDT 療法によって登録ハンセン病患者数は激減したが、新規ハン

セン病患者数は著明な減少は示していない。したがって、ハンセン病の制圧には有効に作用するワクチンは不可欠である。歴史的には、地域によっては *Mycobacterium bovis* BCG (BCG) がワクチンとして用いられた時代があったが、有効性は最終的に 26% であると結論されている<sup>3)</sup>。BCG が有効に作用しない最大の理由は、BCG には固有の欠点、すなわち抗原提示細胞（antigen presenting cell, APC）に感染するとファゴゾームを形成し、ライソゾームとの融合を阻止することに起因している<sup>4-6)</sup>。一方、BCG はらい菌などの病原性抗酸菌に共通して存在する抗原を有し、タイプ1 CD4 陽性 T 細胞を活性化する能力を弱いながらも有していることが知られている。したがって、BCG に代わる新しい信頼性に富んだワクチンを作製するためには、BCG に改良を加えるのが一方法であると考えられる。著者等は、これまでに BCG の改良にあたり様々な努力を払ってきた。最初に、MMP-II を細胞内で分泌するリコンビナント BCG (BCG-SM) を作製した<sup>7)</sup>。BCG-SM は未感作の CD4 陽性・CD8 陽性 T 細胞をある程度活性化し、マウス足蹠に感染させたらい菌の増殖を不完全ながら抑制した<sup>8)</sup>。こうした試みは、抗原提示細胞で主要抗原を分泌させる方策は抗原提示細胞及び T 細胞を活性化する上で有効であることを証明していると考えられる。そこで、MMP-II を細胞内で分泌させるにあたり、シャペロン効果を有する heat shock protein (HSP)70 を利用する、すなわち HSP70-MMP-II 融合蛋白を分

\* Corresponding author:

国立感染症研究所ハンセン病研究センター感染制御部  
〒189-0002 東京都東村山市青葉町 4-2-1  
TEL: 042-202-6002 FAX: 042-391-8212  
E-mail: mmaki@niid.go.jp

泌させることにして、第2のリコンビナント BCG (BCG-70M) を作製した<sup>9)</sup>。BCG-70M は、BCG-SM に比しより強くヒト未感作 CD4 陽性 T 細胞及び CD8 陽性 T 細胞を活性化し、IFN- $\gamma$  の産生を誘導した<sup>10)</sup>。さらに、第3のリコンビナント BCG (BCG- $\Delta$  UT-11-3) を作製した<sup>6)</sup>。BCG はウレアーゼを保有するため尿素からアンモニアを産生し、ファゴゾームの pH をアルカリ側に傾けることで、ファゴゾームの酸性化を抑制し、ライソゾームとの融合を阻止している<sup>4,5)</sup>。そこで、BCG からウレアーゼをコードする *UreC* 遺伝子を除去し BCG- $\Delta$  UT-11-3 を作製した。BCG- $\Delta$  UT-11-3 は容易にライソゾームへ移行し、ヒト未感作 CD4 陽性 T 細胞を強く活性化した<sup>6)</sup>。したがって、二つの独立した方策、HSP70-MMP-II 融合蛋白の細胞内分泌とウレアーゼ活性の除去は、ともに T 細胞を活性化する上で有効であった。そこで、この二つの方策を組み合わせる、すなわちウレアーゼ欠損リコンビナント BCG に HSP70-MMP-II 融合遺伝子を導入して第4のリコンビナント BCG (BCG-D70M) を作製した(図1)。BCG-D70M の T 細胞活性化能を評価するにあたり、コントロール BCG として BCG-261H (ベクターコントロール BCG)、BCG-70M 及び BCG- $\Delta$  UT-11-3 を用いた。

## BCG-D70M の作出

BCG- $\Delta$  UT-11-3 は、BCG-Tokyo 株を親株として用い作製した。ウレアーゼは、BCG ゲノム上の *ureABC*FDG の6個の遺伝子から作られる。その中で、最も長い *ureC* 遺伝子 (1734bp) を破壊する遺伝子の標的とした。また、外来遺伝子を BCG 菌体内へ導入する方法として、抗酸菌に感染するウイルスであるファージの中で温度感受性変異株を利用する方法を用いた。本法は、これまで知られていた方法より効率的に外来遺伝子を導入し得る方法である。ハイグロマイシン耐性遺伝子を挟むように *ureC* 遺伝子の上流および下流の塩基配列をプラスミド pYUB854 へクローニングした。さらに迅速発育抗酸菌 *M.smegmatis* を用い *ureC* 破壊用ファージの調整を行った。組換えファージを BCG-Tokyo に感染させ、ハイグロマイシンを含む平面培地に播き 30°C で培養を行った。約3週間後、形成されたコロニーを培養し、ウレアーゼ試験が陰性であることを確認した。ゲノムに組込まれたハイグロマイシン耐性遺伝子を切り出し、親株と同じカナマイシン、ハイグロマイシン感受性の株  $\Delta$  UT-11-3 を選択した。BCG-D70M は、 $\Delta$  UT-11-3

## BCG-D70M の作製

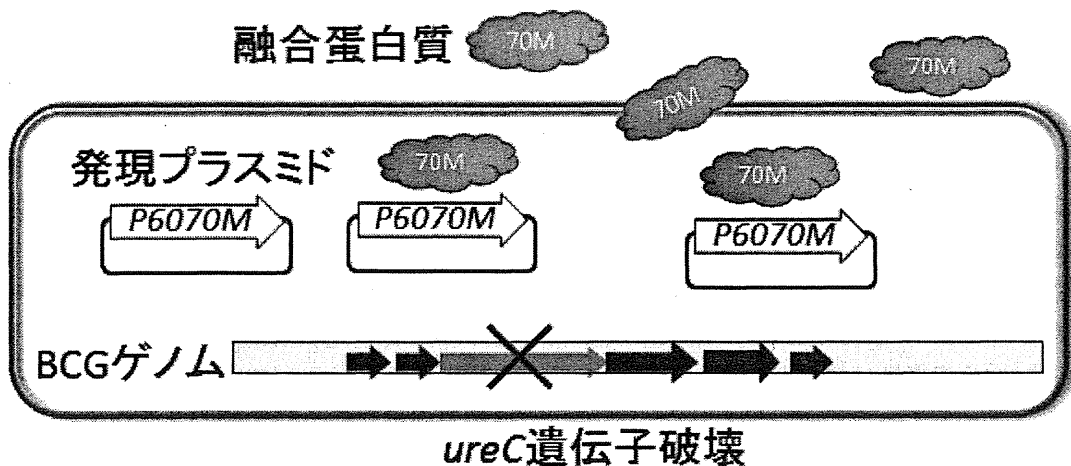


図1：ウレアーゼをコードする *UreC* 遺伝子を欠損するリコンビナント BCG (BCG- $\Delta$  UT-11-3) に、HSP60 プロモーター制御のもと BCG 由来 HSP70 遺伝子とらい菌由来 MMP-II 遺伝子を連結した融合遺伝子を導入し、新規リコンビナント BCG (BCG-D70M) を作製した。

へ *hsp60* のプロモーター領域の下流に *BCGhsp70* 遺伝子とらい菌 *MMP-II* 遺伝子を融合させ、抗酸菌体内でプラスミドとして維持する pMV261 に組み込み、さらに、菌体内での安定した維持のためハイグロマイシン耐性遺伝子を持つプラスミドを導入して作製した。BCG-D70M は、菌体培養液中に Hsp70 と MMP-II の融合した形 (HSP70-MMP-II 融合蛋白) を分泌することをウエスタンブロット法を用い確認した。

### BCG-D70M の評価

BCG-D70M は菌体外へ HSP70-MMP-II を分泌し、コントロール BCG に比し最も強く樹状細胞を刺激して IL-12p70 を産生誘導するとともに、IL-1 $\beta$  及び TNF $\alpha$  を効率的に産生誘導した。さらに、樹状細胞に感染させると BCG-261H に比し有意に HLA-ABC・HLA-R・CD86 及び CD83 抗原の発現を増強させた。また、BCG-D70M を感染させた樹状細胞を抗原提示細胞として用いると、ヒト未感作 CD4 陽性 T 細胞及び CD8 陽性 T 細胞を抗原特異的に活性化して IFN- $\gamma$  の産生を誘導した。BCG-70M・BCG- $\Delta$ UT-11-3 は、マクロファージを介してヒトのメモリー CD4 陽性 T 細胞を活性化し得なかったが、BCG-D70M はメモリー CD4 陽性 T 細胞を活性化して IFN- $\gamma$  の産生を誘導した。この活性化も抗原特異的であった。BCG-D70M による T 細胞活性化機構を解明するため、BCG-D70M 感染樹状細胞の細胞表面を解析すると、MMP-II 由来のペプチドが発現していた。したがって、BCG-D70M がファゴゾームで HSP70-MMP-II 融合蛋白を分泌し、分泌された融合蛋白が効率的にプロセッシングされていると考えられた。さらに、樹状細胞を予めファゴゾームの酸性化抑制剤であるクロロキニンで処理しておく、樹状細胞表面の MMP-II 由来分子の発現が消失することから、ファゴゾームの成熟化が樹状細胞表面への MMP-II の発現に関与していることが判明した。そこで、ファゴゾームの成熟化と T 細胞の活性化との関連を検討するため、樹状細胞及びマクロファージを予めクロロキニンで処理した後 BCG-D70M を感染させ T 細胞を刺激すると、未感作 CD4 陽性 T 細胞・未感作 CD8 陽性 T 細胞及びメモリー CD4 陽性 T 細胞からの IFN-

$\gamma$  の産生が全て有意に抑制されることが判明した。さらに、樹状細胞をプレフェルディン A あるいはラクトシステインで処理すると未感作 CD8 陽性 T 細胞の活性化が抑制された。つまり、BCG-D70M は TAP 及びプロテオゾームに依存した cytosolic cross-presentation pathway によって未感作 CD8 陽性 T 細胞を活性化していることが明らかとなった。また、BCG-D70M は *in vitro* で CCR7<sup>low</sup> 及び CD27<sup>low</sup> のメモリータイプ CD8 陽性 T 細胞及びパーフォリン産生性キラー CD8 陽性 T 細胞を効率的に産生し、かつ C57BL/6 マウスに BCG-D70M を皮下接種すると、*in vitro* で MMP-II あるいは HSP70 といったリコール抗原に反応して IFN- $\gamma$  を産生するメモリー T 細胞を効率的に産生した。このメモリー T 細胞産生能は、皮下接種後 12 週間以上継続した。最後に、BCG-D70M のワクチン効果を C57BL/6 マウスを用いて検証すると、ベクターコントロール BCG に比し効率的かつ有意に足蹠へ接種されたらい菌の増殖を抑制し、充分なるワクチン効果を有していることが判明した。

### おわりに

ハンセン病に対し有効に作用する改良型 BCG の作出にあたっては、ウレアーゼ活性の除去、HSP70-MMP-II 融合遺伝子の導入が有効であった。信頼されるハンセン病ワクチンの確立には更なる検討と改良技術の導入が必要であるが、今回研究で得られた知見が一助となることを願っている。

ハンセン病学会賞の受賞にあたっては、共著者及びハンセン病のワクチン開発に携わり多くの助言と協力を頂いたハンセン病研究センター内外の諸先生に厚く御礼申し上げたい。

尚、本論文は、The Journal of Immunology, 2010, 185: 6234-6243 に掲載された。

### 文 献

- 1) Maeda Y, Mukai T, Spencer J, Makino M: Identification of Immunomodulating Agent from *Mycobacterium leprae*. Infect Immun 73: 2744-2750, 2005
- 2) Makino M, Maeda Y, Ishii N: Immunostimula-

- tory activity of major membrane protein-II from *Mycobacterium leprae*. *Cell Immunol* 233: 53-60, 2005
- 3 ) Setia MS, Steinmaus C, Ho CH, Rutherford GW: The role of BCG in prevention of leprosy: a meta-analysis. *Lancet Infect Dis* 6: 162-170, 2006
  - 4 ) Reyrat JM, Berthet FX, Gicquel B: The urease locus of *Mycobacterium tuberculosis* and its utilization for the demonstration of allelic exchange in *Mycobacterium bovis* bacillus Calmette-Guérin. *Proc Natl Acad Sci USA* 92: 8768-8772, 1995
  - 5 ) Grode L, Seiler P, Baumann S, Hess J, Brinkmann V, Eddine AN, Mann P, Goosmann C, Bandermann S, Smith D, Bancroft GJ, Reyrat JM, van Soolingen D, Raupach B, Kaufmann SHE: Increased vaccine efficacy against tuberculosis of recombinant *Mycobacterium bovis* bacille Calmette-Guérin mutants that secrete listeriolysin. *J Clin Invest* 115: 2472-2479, 2005
  - 6 ) Mukai T, Maeda Y, Tamura T, Miyamoto Y, Makino M: CD4<sup>+</sup> T-cell activation by antigen-presenting cells infected with urease-deficient recombinant *Mycobacterium bovis* bacillus Calmette-Guérin. *FEMS Immunol Med Microbiol* 53: 96-106, 2008
  - 7 ) Makino M, Maeda Y, Inagaki K: Immunostimulatory activity of recombinant *Mycobacterium bovis* BCG that secretes Major Membrane Protein II of *Mycobacterium leprae*. *Infect Immun* 74: 6264-6271, 2006
  - 8 ) Maeda Y, Tamura T, Matsuoka M, Makino M: Inhibition of the multiplication of *Mycobacterium leprae* by vaccination with a recombinant *M. bovis* BCG strain that secretes major membrane protein-II in mice. *Clin Vaccine Immunol* 16: 1399-1404, 2009
  - 9 ) Mukai T, Maeda Y, Tamura T, Matsuoka M, Tsukamoto Y, Makino M: Induction of cross-priming of naïve CD8<sup>+</sup> T lymphocytes by recombinant bacillus Calmette-Guérin that secretes heat shock protein 70-major membrane protein-II fusion protein. *J Immunol* 183: 6561-6568, 2009

# Enhanced activation of T lymphocytes by urease-deficient recombinant bacillus Calmette-Guérin producing heat shock protein 70-major membrane protein-II fusion protein

Masahiko MAKINO\* & Tetsu MUKAI

Department of Mycobacteriology, Leprosy Research Center, National Institute of Infectious Diseases, Tokyo, Japan

[Received / Accepted: 17 May, 2012]

Key words : leprosy, MMP-II, recombinant BCG, T cell, vaccine

To activate naïve T cells convincingly using *Mycobacterium bovis* BCG (BCG), rBCG (BCG-D70M) that was deficient in urease, expressed with gene encoding the fusion of BCG-derived heat shock protein (HSP) 70 and *Mycobacterium leprae*-derived major membrane protein (MMP)-II, one of the immunodominant Ags of *M. leprae*, was newly constructed. BCG-D70M was more potent in activation of both CD4<sup>+</sup> and CD8<sup>+</sup> subsets of naïve T cells than rBCGs including urease-deficient BCG and BCG-70M secreting HSP70-MMP-II fusion protein. BCG-D70M efficiently activated dendritic cells (DC) to induce cytokine production and phenotypic changes, and activated CD4<sup>+</sup> T cells even when macrophages were used as APCs. The activation of both subsets of T cells was MHC and CD86 dependent. Pre-treatment of DC with chloroquine inhibited both surface expression of MMP-II on DC and the activation of T cells by BCG-D70M-infected APCs. The naïve CD8<sup>+</sup> T cell activation was inhibited by treatment of DC with brefeldin A and lactacystin so that the T cells was activated by TAP- and proteasome-dependent cytosolic cross-priming pathway. From naïve CD8<sup>+</sup> T cells, effector T cells producing perforin and memory T cells having migration markers, were produced by BCG-D70M stimulation. BCG-D70M primary infection in C57BL/6 mice produced T cells responsive to *in vitro* secondary stimulation with MMP-II and HSP70, and more efficiently inhibited the multiplication of subsequently challenged *M. leprae* than vector control BCG. These results indicate that the triple combination of HSP70, MMP-II and urease depletion may provide useful tool for inducing better activation of naïve T cells.

---

\*Corresponding author :

Department of Mycobacteriology, Leprosy Research Center,  
National Institute of Infectious Diseases  
4-2-1 Aobacho, Higashimurayama, Tokyo 189-0002, Japan.  
TEL : +81-42-202-6002 FAX : +81-42-391-8212  
E-mail : mmaki@niid.go.jp

# Impact of Amino Acid Substitutions in B Subunit of DNA Gyrase in *Mycobacterium leprae* on Fluoroquinolone Resistance

Kazumasa Yokoyama<sup>1</sup>, Hyun Kim<sup>1</sup>, Tetsu Mukai<sup>2</sup>, Masanori Matsuoka<sup>2</sup>, Chie Nakajima<sup>1</sup>, Yasuhiko Suzuki<sup>1,3\*</sup>

**1** Division of Global Epidemiology, Hokkaido University Research Center for Zoonosis Control, Sapporo, Hokkaido, Japan, **2** Leprosy Research Center, National Institute of Infectious Diseases, Higashimurayama, Tokyo, Japan, **3** JST/JICA-SATREPS, Tokyo, Japan

## Abstract

**Background:** Ofloxacin is a fluoroquinolone (FQ) used for the treatment of leprosy. FQs are known to interact with both A and B subunits of DNA gyrase and inhibit supercoiling activity of this enzyme. Mutations conferring FQ resistance have been reported to be found only in the gene encoding A subunit of this enzyme (*gyrA*) of *M. leprae*, although there are many reports on the FQ resistance-associated mutation in *gyrB* in other bacteria, including *M. tuberculosis*, a bacterial species in the same genus as *M. leprae*.

**Methodology/Principal Findings:** To reveal the possible contribution of mutations in *gyrB* to FQ resistance in *M. leprae*, we examined the inhibitory activity of FQs against recombinant DNA gyrases with amino acid substitutions at position 464, 502 and 504, equivalent to position 461, 499 and 501 in *M. tuberculosis*, which are reported to contribute to reduced sensitivity to FQ. The FQ-inhibited supercoiling assay and FQ-induced cleavage assay demonstrated the important roles of these amino acid substitutions in reduced sensitivity to FQ with marked influence by amino acid substitution, especially at position 502. Additionally, effectiveness of sitafloxacin, a FQ, to mutant DNA gyrases was revealed by low inhibitory concentration of this FQ.

**Significance:** Data obtained in this study suggested the possible emergence of FQ-resistant *M. leprae* with mutations in *gyrB* and the necessity of analyzing both *gyrA* and *gyrB* for an FQ susceptibility test. In addition, potential use of sitafloxacin for the treatment of problematic cases of leprosy by FQ resistant *M. leprae* was suggested.

**Citation:** Yokoyama K, Kim H, Mukai T, Matsuoka M, Nakajima C, et al. (2012) Impact of Amino Acid Substitutions in B Subunit of DNA Gyrase in *Mycobacterium leprae* on Fluoroquinolone Resistance. PLoS Negl Trop Dis 6(10): e1838. doi:10.1371/journal.pntd.0001838

**Editor:** Christian Johnson, Fondation Raoul Follereau, France

**Received:** May 21, 2012; **Accepted:** August 14, 2012; **Published:** October 11, 2012

**Copyright:** © 2012 Yokoyama et al. This is an open-access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution License, which permits unrestricted use, distribution, and reproduction in any medium, provided the original author and source are credited.

**Funding:** This study was supported in part by J-GRID, the Japan Initiative for Global Research Network on Infectious Diseases from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science, and Technology, Japan (MEXT), the Global Center of Excellence (COE) Program, "Establishment of International Collaboration Centers for Zoonosis Control" from MEXT, a grant from the U.S.-Japan Cooperative Medical Science Programs to Y.S., a Grants-in-Aid for Scientific Research from the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) to Y.S. and C.N., and a Grant-in-Aid for Research on Emerging and Re-emerging Infectious Diseases from the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan to T.M. and Y.S. The funders had no role in study design, data collection and analysis, decision to publish, or preparation of the manuscript.

**Competing Interests:** The authors have declared that no competing interests exist.

\* E-mail: suzuki@czc.hokudai.ac.jp

## Introduction

Leprosy is one of the oldest human infectious diseases and remains a public health problem. At the beginning of 2011, the number of registered leprosy cases was 192,246, and that of new cases reported during 2010 was 228,474, mainly from Asian, Latin American, and African countries [1]. Multibacillary leprosy is usually treated by administering dapsone (DDS), clofazimine (CLF), and rifampicin (RIF) in combination, where single skin lesion paucibacillary leprosy is recommended to be treated by administering RIF, ofloxacin (OFX), and minocycline (MIN) [2]. Since the late 1990s, multi-drug resistant (MDR) isolates of *M. leprae*, resistant to RIF and DDS, have emerged and the importance of OFX has been a focus for the treatment of MDR-leprosy [3]; however, their use not only for leprosy but also for other infectious diseases including tuberculosis has already led

to OFX resistance in *M. leprae* [4–8]. Hence, early prediction of FQ resistance seems to be essential for the proper treatment of leprosy.

OFX is a fluoroquinolone (FQ) and FQs inhibit type II DNA topoisomerases, including DNA gyrase and topoisomerase IV [9]. FQ resistance is given mainly by amino acid substitutions in the quinolone resistance-determining regions (QRDRs) located on the N- and C-terminal domains of A (GyrA) and B (GyrB) subunits of DNA gyrase and, less prominently, amino acid substitution in the QRDR on the N- and C-terminal domains of A (ParC) and B (ParE) subunits of topoisomerase IV has been reported [10]. *M. leprae* has only DNA gyrase [11], which is therefore the sole target of FQs. Genetic analysis of *M. leprae* clinical isolates revealed reduced FQ sensitivity associated with amino acid substitutions only at position 89 or 91 and 205 in GyrA and GyrB, respectively [4–8,12]. In the latter study, the contribution of amino acid

**Author Summary**

Leprosy is one of the oldest human infectious diseases, which remains a public health problem with more than 200,000 new cases every year worldwide. Since the late 1990s, multi-drug resistant leprosy, resistant to rifampicin and dapson, has emerged and the importance of ofloxacin has increased. However, their use for leprosy and other infectious diseases has already elicited ofloxacin resistant leprosy cases. Hence, early detection of ofloxacin resistance is essential for proper treatment. This study, by utilizing recombinant technology, predicted the future emergence of ofloxacin resistant *Mycobacterium leprae* with mutations that have not yet been reported. The data are useful for predicting ofloxacin resistance and, hence, able to contribute to the proper treatment of leprosy through suggesting the importance of analyzing gene mutations for FQ susceptibility testing.

substitution in GyrA at position 89 or 91 to reduced FQ sensitivity was confirmed by an *in vitro* analysis [13]. In addition, the effect of amino acid substitution at position 95 in GyrA was predicted [14]. In contrast, amino acid substitution in GyrB at position 205, reported by You et al. [8], was revealed not to affect FQ sensitivity by an *in vitro* study [13]. Reduced FQ sensitivity associated with amino acid substitutions has been frequently reported in GyrA in *M. tuberculosis*; however, those in GyrB have been reported less frequently (Figure 1) [10,15]. According to the reports, important residues of GyrB in *M. tuberculosis* were thought to be at codon 461, 499 and 501 (with a counting system proposed by Maruri et al. [10]). Notably, amino acid substitutions at position 499 and 501 in *M. tuberculosis* showed a correlation with reduced FQ susceptibility by an *in vitro* assay [15–18]. Lack of the detection of FQ-resistant *M. leprae* carrying GyrB amino acid substitutions is due to the low number of FQ resistant cases analyzed. Hence, it is highly important to elucidate the contribution of amino acid substitutions

A	426	485	459	464	466
B	464 --- GAT --- Asp	485 CGT Arg	497 --- GAC --- Asp	502 --- AAC --- Asn	504 --- GAA --- Glu
C	461 --- GAC --- Asp	521 CGC	494 --- GAC --- Asp	499 --- AAC --- Asn	501 --- GAA --- Glu
D	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <u>A</u>AC Asn         </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           G<u>C</u>C Ala         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           G<u>A</u>C Asp         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           G<u>T</u>A Val         </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           C<u>A</u>C His         </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           A<u>C</u>C Thr         </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           G<u>C</u>C Ala         </div>			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           A<u>A</u>A Lys         </div>	

**Figure 1. Nucleotide and amino acid sequences of QRDR of *M. leprae* and *M. tuberculosis gyrB* and mutations found in FQ-resistant isolates.** (A) amino acid number of GyrB in *E. coli*, (B) Amino acid number, nucleotide sequences and amino acid sequence of WT *M. leprae* GyrB QRDR, (C) Amino acid number, nucleotide sequences and of WT *M. tuberculosis* GyrB QRDR, (D) Altered amino acids and corresponding nucleotide substitutions found in higher rate in FQ-resistant *M. tuberculosis* isolates.  
doi:10.1371/journal.pntd.0001838.g001



in *GyrB* to FQ resistance utilizing recombinant technology and *in vivo* assay.

On the basis of reports on *M. tuberculosis*, we selected target amino acid substitutions at position 464, 502 and 504 in *M. leprae* *GyrB*, equivalent to position 461, 499 and 501 in *M. tuberculosis*, to reveal the significance of these amino acid substitutions for reduced FQ sensitivity, and conducted the FQ-inhibited supercoiling assay and FQ-mediated DNA cleavage assay using recombinant DNA gyrase.

**Methods**

**Drugs and kits**

Ofloxacin (OFX), ciprofloxacin (CIP) and levofloxacin (LVX) were purchased from LKT Laboratories, Inc. (St. Paul, MN); moxifloxacin (MXF) was from Toronto Research Chemicals Inc. (Toronto, Ontario, Canada); sitafloxacin (SIT) was from Daiichi-sankyo Pharmaceutical, Co., Ltd. (Tokyo, Japan); ampicillin and kanamycin were purchased from Meiji Seika Pharma Ltd. (Tokyo, Japan). Oligonucleotide primers were synthesized by Life Technologies Corp. (Carlsbad, CA). Restriction enzymes were obtained from New England Biolabs, Inc. (Ipswich, MA). The supercoiling assay kit and supercoiled and relaxed pBR322 DNA were purchased from John Innes Enterprises Ltd. (Norwich, United Kingdom).

**Bacterial strains and plasmid**

The Thai-53 strain of *M. leprae* [19], maintained at the Leprosy Research Center, National Institute of Infectious Diseases (Tokyo, Japan), was used to prepare *M. leprae* DNA. *Escherichia coli* strains TOP-10 (Life Technologies Corp.), Rosetta-gami 2, and BL21 (DE3) pLysS (Merck KGaA, Darmstadt, Germany) were used for cloning and protein expression. pET-20b (+) (Merck KGaA) vector was used to construct expression plasmids for *M. leprae* DNA gyrases.

**Construction of expression plasmids**

Wild-type (WT) recombinant *GyrA* and *GyrB* expression plasmids were constructed as described previously [14,16]. Mutations were introduced into the WT *gyrB* gene by PCR using pairs of complementary primers containing the mutations of interest (Table 1). All PCR reactions were carried out in a thermal cycler (Life Technologies Corp.) under the following conditions: pre-denaturation at 95°C for 2 min; 35 cycles of denaturation at 95°C for 10 s, annealing at 50–60°C for 15 s, and extension at 68°C for 1 to 3 min, and then a final extension at 68°C for 5 min.

The *gyrB* C-terminal cassettes with base substitutions were digested with *Pml* I and *Xho* I, ligated into WT *gyrB* expression plasmid, and digested with the same restriction endonucleases to obtain mutant *gyrB* expression plasmid (Figure 2). The nucleotide sequences of the DNA gyrase genes in the plasmids were confirmed using a BigDye Terminator (version 3.1) cycle sequencing kit and an ABI Prism 3130xl genetic analyzer (Life Technologies Corp.) according to the manufacturer’s protocol.

**Expression and purification of recombinant DNA gyrase subunits**

Recombinant DNA gyrase subunits were expressed and purified as previously described [13,14,16,20]. Briefly, expression plasmids carrying the *gyrA* and *gyrB* of *M. leprae* were transformed into *E. coli* Rosetta-gami 2 and BL21 (DE3) pLysS, respectively. The transformants were grown in Luria-Bertani (LB) medium in the presence of 100 µg/mL Ampicillin to the log phase and the expression of DNA gyrase was induced with the addition of 1 mM isopropyl-beta-D-thiogalactopyranoside (Wako Pure Chemical Industries Ltd., Osaka, Japan), followed by further incubation at 14°C for 16 h. The harvested *E. coli* were lysed by sonication (Sonifier 250; Branson, Danbury, CT) and the recombinant DNA gyrase subunits in supernatants after centrifugation (10,000 × g for 30 min) were purified by Ni-NTA Agarose resin (Life Technologies Corp.) column chromatography and dialyzed against DNA gyrase dilution buffer (50 mM Tris-HCl pH 7.5, 100 mM KCl, 2 mM DTT, 1 mM EDTA). The purified protein fractions were examined by sodium dodecyl sulfate-polyacrylamide gel electrophoresis (SDS-PAGE).

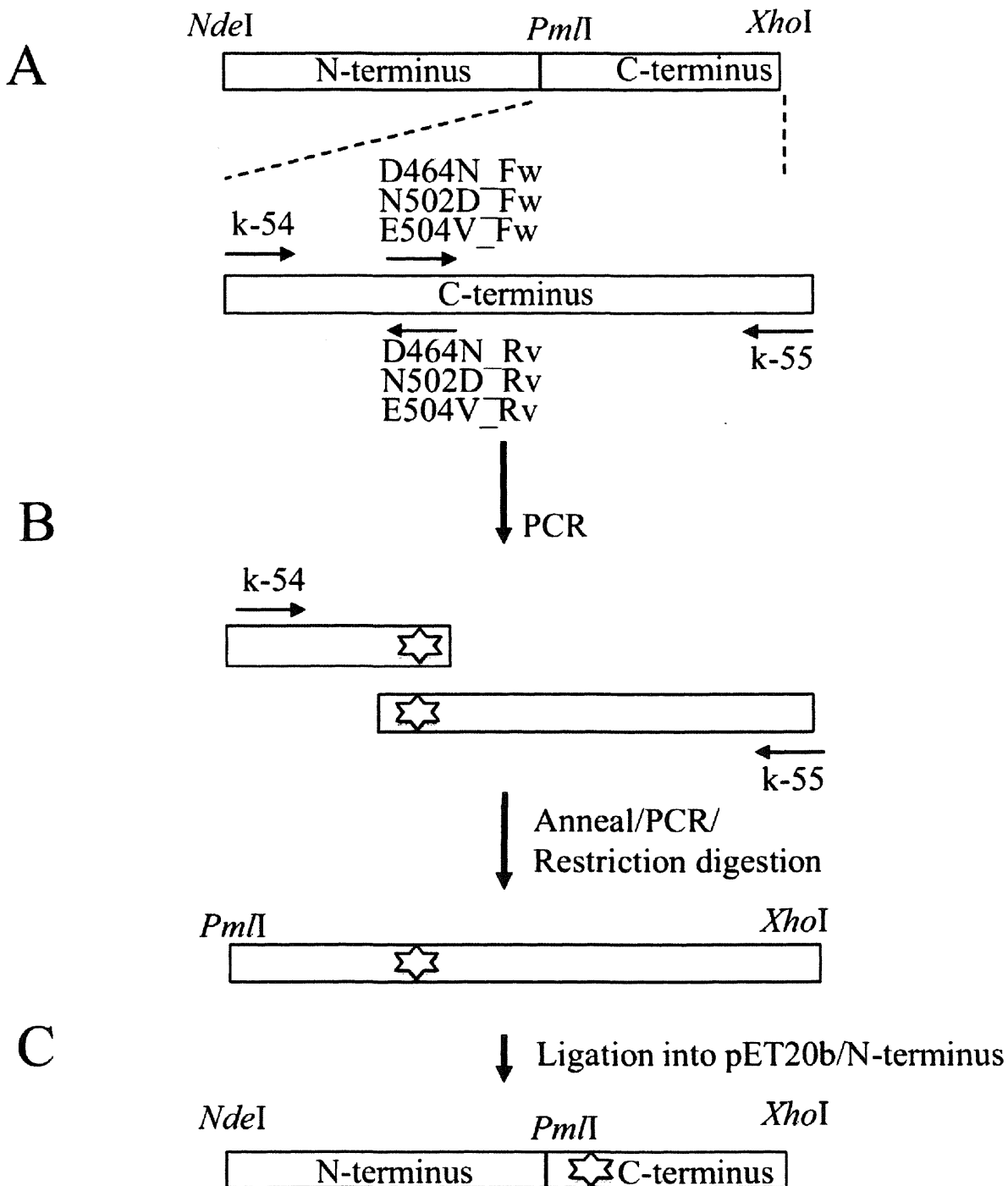
**DNA supercoiling assay and inhibition by FQs**

ATP-dependent and FQ-inhibited DNA supercoiling assays were performed according to previous reports [13,14,16,20]. DNA supercoiling activity was examined with reaction mixture consisting of DNA gyrase reaction buffer, relaxed pBR322 DNA (0.3 µg), and *GyrA* and *GyrB* subunits (50 ng each) in a total volume of 30 µl. Reactions were run at 30°C for 1.5 h followed by stopping with the addition of 30 µl chloroform/iso-amyl alcohol (24:1 mixture) and 3 µl of 10× DNA loading solution. The total reaction mixtures were subjected to electrophoresis on 1% agarose gels in 1× Tris-borate-EDTA (TBE) buffer and stained by ethidium bromide (0.7 µg/ml). The extent of supercoiled DNA was quantified with ImageJ (<http://rsbweb.nih.gov/ij>) and the inhibitory effects of FQs on DNA gyrase were assessed by determining the drug concentration required to inhibit the supercoiling activity of the DNA gyrase by 50% (IC<sub>50</sub>) in the

**Table 1.** Nucleotide sequences of primers used in this study.

Primer name	Primer sequence (Nucleotide Position)
k-54	5'-CGTAAAGCACGTGAGTTAGTGCCTCGAAAAAGTGCC-3' (1270–1305)
k-55	5'-GGCTCGAGCTAATGATGATGATGATGATGGACATCCAGGAAACGAACATCC-3' (2013–2037)
D464N_Fw	5'-A GTG GAA GGT AAT TCG GCT GGT G
D464N_Rv	5'-C ACC AGC CGA ATT ACC TTC CAC T
N502D_Fw	5'-A GTG CTA AAG GAC ACC GAA GTT C
N502D_Rv	5'-G AAC TTC GGT GTC CTT TAG CAC T
E504V_Fw	5'-A AAG AAC ACC GTA GTT CAA GCA A
E504V_Rv	5'-T TGC TTG AAC TAC GGT GTT CTT T

Mutated codons are indicated in bold face.  
doi:10.1371/journal.pntd.0001838.t001



**Figure 2. Construction of WT and mutant DNA gyrase expression plasmid.** (A) Primer pairs k-54+D464N\_Rv, N502D\_Rv or E504V\_Rv (Table 1) were used for amplifying the DNA fragment encoding N-terminus half (amino acid 424 to 467, 505 or 507, respectively) of C-terminus region of GyrB carrying Asp464Asn, Asn502Asp and Glu504Val, respectively. Primer pairs k-55+D464N\_Fw, N502D\_Fw or E504V\_Fw (Table 1) were used for amplifying the DNA fragment encoding the C-terminus half (amino acid 461, 499 or 501 to 678, respectively) of the C-terminus region of GyrB carrying Asp464Asn, Asn502Asp and Glu504Val, respectively. (B) To complete the C-terminus region encoding cassette, DNA fragments encoding the N-terminus half and C-terminus half of the C-terminus region of GyrB were annealed and reamplified by PCR using the primer pair of k-54 and k-55. (C) The mutated *gyrB*-C cassettes were digested with *PmlI* and *XhoI* restriction endonucleases and ligated into the expression plasmid containing the WT *gyrB*-N-terminus region DNA fragment digested by the same enzymes.  
doi:10.1371/journal.pntd.0001838.g002

presence or absence of serial two-fold increases in the concentrations of OFX, MXF, SIT, CIP and LVX. Enzymatic assays were performed at least three times to confirm the reproducibility.

#### FQ-mediated DNA cleavage assay

DNA cleavage assays were also carried out as described in previous reports [13,14,16,20,21]. Briefly, the reaction mixture

(total volume 30  $\mu$ l) contained DNA gyrase assay buffer, purified DNA gyrase subunits, supercoiled pBR322 DNA (0.3  $\mu$ g) and increasing concentrations of OFX, MXF, SIT, CIP and LVX. After incubation for 2 h at 30°C, cleavage reactions were stopped by adding 3  $\mu$ l of 2% SDS and 3  $\mu$ l proteinase K (1 mg/ml). After subsequent incubation for 30 min at 30°C, proteinase K reactions were stopped by the addition of 3  $\mu$ l of 0.5 mM EDTA, 30  $\mu$ l chloroform/iso-amyl alcohol (24:1 mixture) and 3  $\mu$ l of 10 $\times$  DNA loading dye. The total reaction mixtures were subjected to electrophoresis in 0.8% agarose gels in 1 $\times$  TBE buffer, followed by ethidium bromide staining. The extent of DNA cleavage was quantified with ImageJ (<http://rsbweb.nih.gov/ij>) and the FQ concentrations required to induce 25% of the maximum DNA cleavage (CC<sub>25S</sub>) were determined.

**Results**

**Construction and purification of recombinant WT and mutant DNA gyrase subunits**

The WT GyrA and GyrB expression plasmids constructed in our previous work [14] were used. DNA fragments with mutations causing amino acid substitutions at position 464, 502 and 504 in GyrB were amplified from WT GyrB expression plasmid [14] and introduced into expression vector pET-20b (+). Recombinant GyrA and GyrB were expressed as C-terminus hexa-histidine tagged protein for ease of purification, as the His-tag has been shown not to interfere with the catalytic functions of GyrA and GyrB [13–16,20,22]. Expressed recombinant WT and mutant DNA gyrase subunits were purified as 0.4 to 1.7 mg soluble His-tagged protein with molecular weights of 80 kDa and 75 kDa for GyrA and GyrB, respectively, from 500 ml cultures. The purity of recombinant proteins was confirmed by SDS-PAGE (Figure S1).

All of the recombinant proteins were obtained with high purity (>90–95%).

**ATP-dependent DNA supercoiling activities of WT and mutant DNA gyrases**

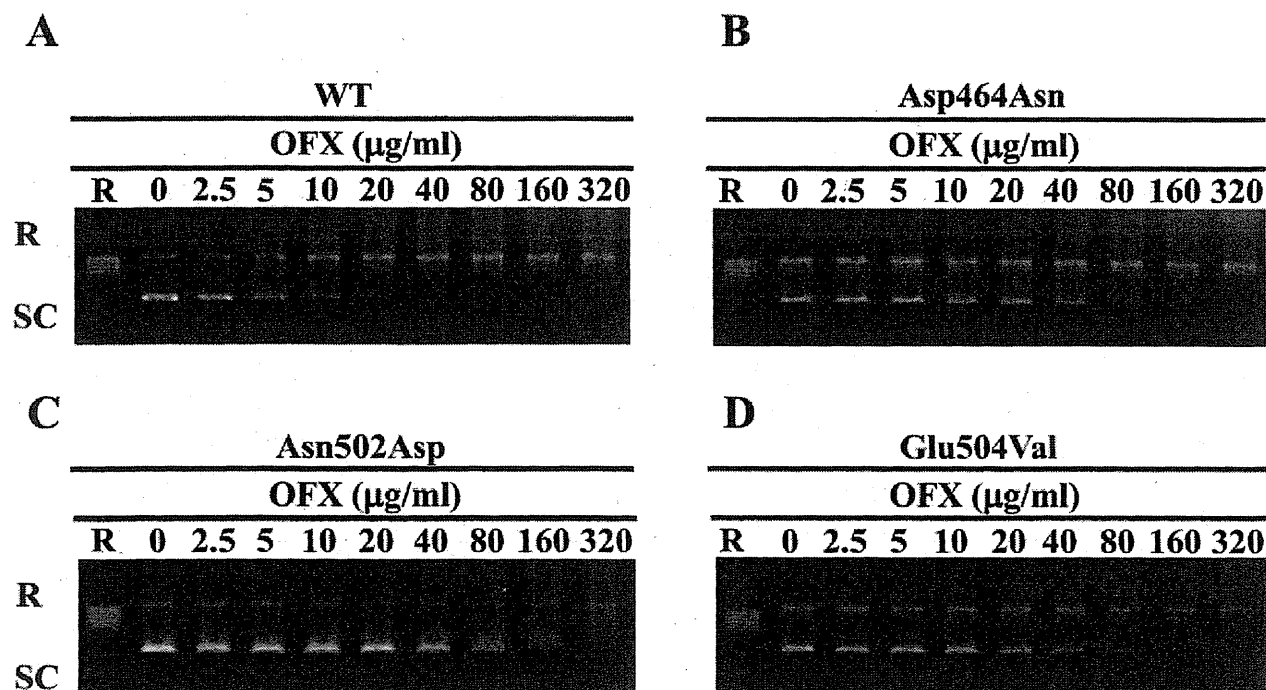
Combinations of WT GyrA and WT or mutant GyrBs (GyrB-Asp464Asn, GyrB-Asn502Asp or GyrB-Glu504Val) were examined for DNA supercoiling activities using relaxed pBR322 DNA as a substrate in the presence or absence of ATP (Figure S2). DNA supercoiling activities were observed in the presence of ATP and recombinant DNA gyrase subunits (Figure S2 A–D, lane 3), while neither subunit alone exhibited DNA supercoiling activity (Figure S2 A–D, lane 4, 5). In addition, no supercoiling activity was observed when ATP was omitted from the reaction condition (Figure S2 A–D, lane 6). Consequently, ATP-dependent DNA supercoiling activities were confirmed with WT and three mutant DNA gyrases.

**IC<sub>50S</sub> of five FQs for WT and mutant DNA gyrases**

FQs-inhibited DNA supercoiling activities were assessed for the determination of IC<sub>50S</sub>. Figure 3 shows a representative result of the inhibitory effect of OFX and the results for the other FQs are presented in Figure S3. Results show the dose-dependent inhibition of five FQs against WT and mutant DNA gyrases, as summarized in Table 2. The five FQs inhibited the DNA supercoiling activities of WT DNA gyrase at low concentration (Table 2).

**CC<sub>25S</sub> of five FQs for WT and mutant DNA gyrases**

DNA cleavage assay was performed in the presence of increasing concentrations of FQs to estimate CC<sub>25S</sub>. Figure 4 presents the results of a representative DNA cleavage assay using



**Figure 3. OFX-inhibited DNA supercoiling assay.** Relaxed pBR322 (0.3 mg) was incubated with GyrA (50 ng) and GyrB (50 ng) in the presence of the indicated concentration of OFX. FQ-inhibited supercoiling activity assay was performed in combination of WTGyrA+WTGyrB (A), GyrB-Asp464Asn (B), GyrB-Asn502Asp (C) and GyrB-Glu504Val (D). R and SC denote relaxed and supercoiled pBR322 DNA, respectively. doi:10.1371/journal.pntd.0001838.g003

**Table 2.** IC<sub>50</sub>s and CC<sub>25</sub>s of FQs against WT and mutant DNA gyrases.

Drug	IC <sub>50</sub> (µg/ml)				CC <sub>25</sub> (µg/ml)			
	WT	Asp464Asn	Asn502Asp	Glu504Val	WT	Asp464Asn	Asn502Asp	Glu504Val
OFX	5.7±0.8	53.9±9.0	106.6±25.1	346±4.3	2.4±0.2	32.7±6.3	78.2±12.6	30.0±7.9
MXF	1.7±0.3	4.1±0.4	17.8±2.6	13.9±0.6	0.6±0.0	3.3±0.9	15.3±2.6	9.6±1.7
SIT	0.5±0.1	1.8±0.3	1.6±0.6	1.7±0.2	0.2±0.0	0.9±0.0	1.0±0.2	0.7±0.1
CIP	2.3±0.3	11.3±2.7	257.9±46.1	49.3±9.4	0.9±0.2	6.5±0.6	42.5±13.6	24.7±0.5
LVX	4.5±0.3	32.9±3.2	46.8±1.1	19.9±2.9	1.4±0.1	18.6±4.9	51.7±10.6	9.3±0.7

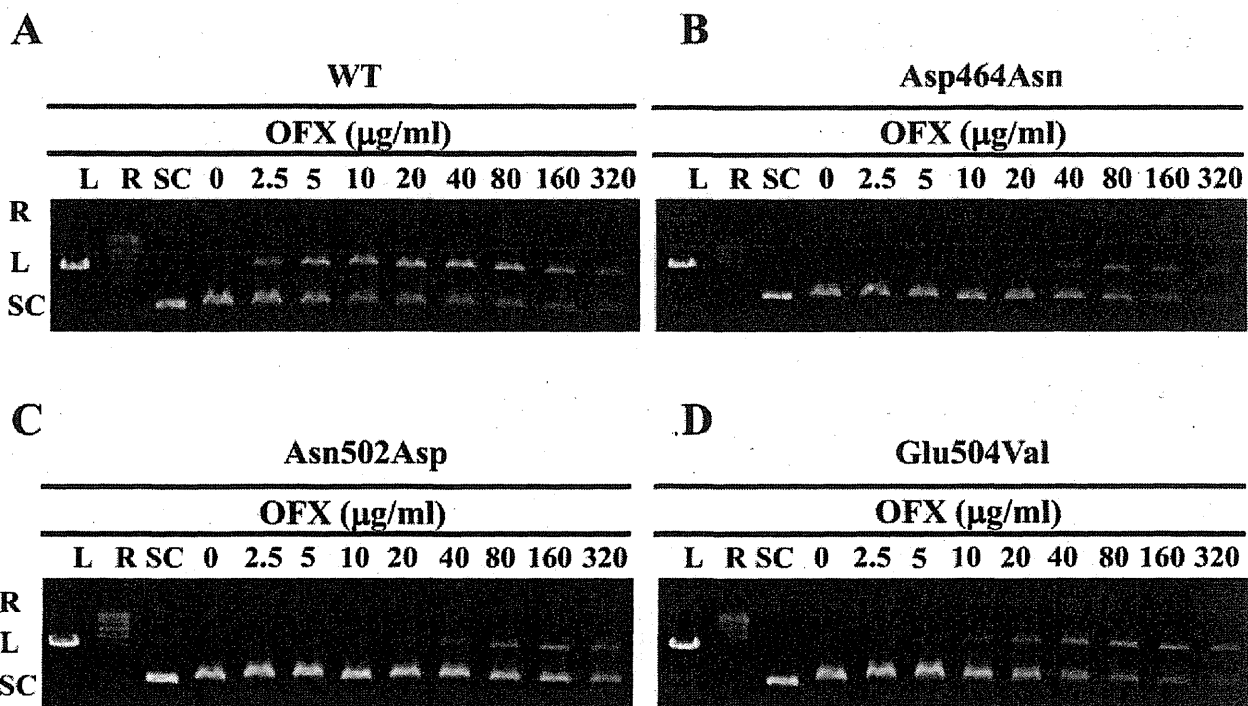
doi:10.1371/journal.pntd.0001838.t002

OFX, and Figure S4 shows those using other FQs. Table 2 shows the CC<sub>25</sub>s of FQs for WT and mutant DNA gyrases. Highest CC<sub>25</sub>s of FQs were observed for GyrB-Asn502Asp DNA gyrase.

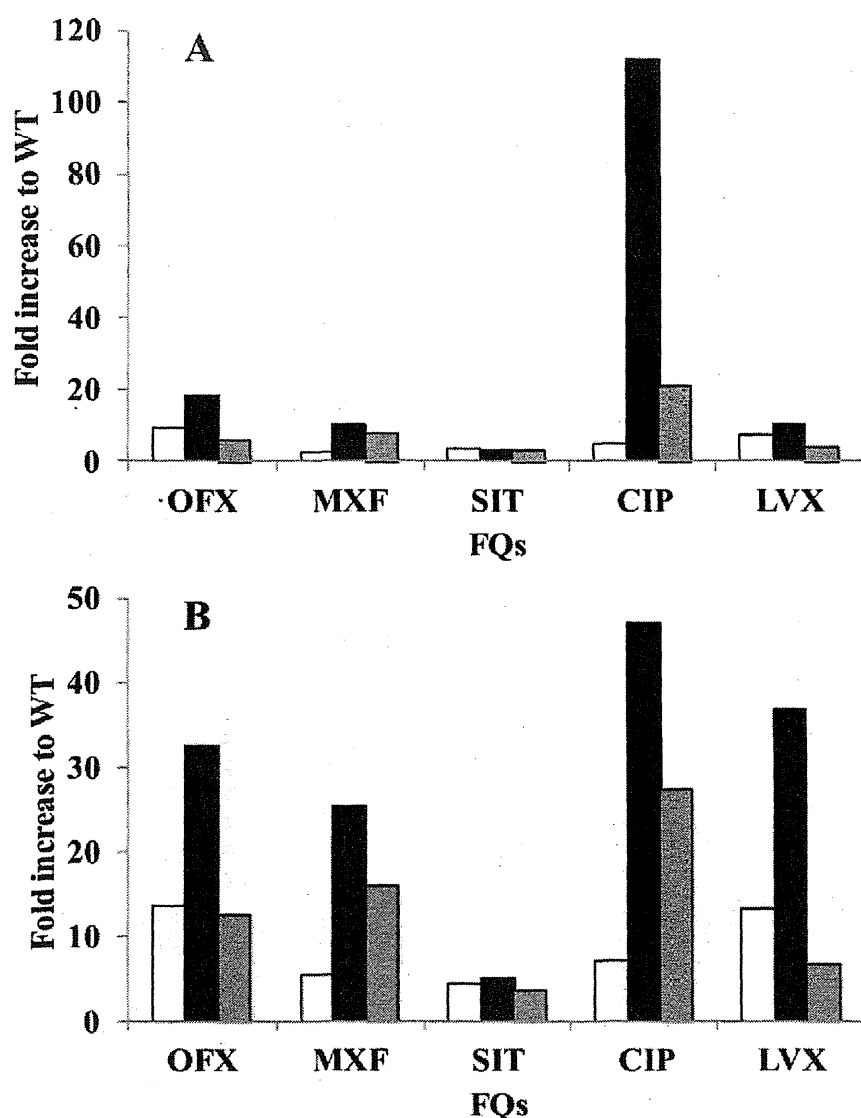
**Discussion**

We focused on amino acid substitutions at position 464, 502 and 504 in GyrB in *M. leprae* equivalent to 461, 499 and 501, respectively, in *M. tuberculosis*, as amino acid substitutions at these positions in *M. tuberculosis* are known to contribute to FQ resistance [13-16,20,22,23]. We carried out a FQ-mediated supercoiling activity inhibition assay and a DNA cleavage assay using recombinant WT and mutant DNA gyrases at 30°C, the optimal temperature of *M. leprae* growth [24], and calculated IC<sub>50</sub>s and CC<sub>25</sub>s of five FQs, including OFX, MXF, SIT, CIP and LVX. All FQs inhibited DNA supercoiling activities of WT DNA gyrase at low concentration (Table 2). In strong contrast, three mutant DNA

gyrases showed reduced sensitivity to all five FQs. GyrB-Asn502Asp DNA gyrase exhibited the lowest FQ sensitivity among the three mutant DNA gyrases. IC<sub>50</sub>s of OFX, MXF, SIT, CIP and LVX for GyrB-Asp464Asn, Asn502Asp and Glu504Val DNA gyrases were 2.4- to 9.5-fold, 3.2- to 112.1-fold and 3.4- to 21.4-fold higher than those for WT DNA gyrase (Figure 3, 5, S3 and Table 2). A similar tendency was observed in the DNA cleavage assay. Namely, CC<sub>25</sub>s of OFX, MFX, SIT, CIP and LVX for GyrB-Asp464Asn, Asn502Asp and Glu504Val DNA gyrases were 4.5- to 13.6-fold, 5.0- to 47.2-fold and 3.5- to 27.4-fold higher than for WT DNA gyrase (Figure 4, 5, S4, Table 2). These results suggested the contribution of these amino acid substitutions in GyrB to reduced FQ sensitivity and the possible emergence of *M. leprae* with mutant GyrB, although previously identified Asp to Asn amino acid substitution in GyrB at position 205 [8] was revealed not to have an effect on FQ susceptibility [13]. It is noteworthy that mutant DNA gyrases exhibited a similar



**Figure 4. OFX-mediated DNA cleavage assay.** Supercoiled pBR322 (0.3 mg) was incubated with GyrA (50 ng) and GyrB (50 ng) in the presence of the indicated concentration of OFX. DNA cleavage assay was performed in combination of WT GyrA+WT GyrB (A), GyrB-Asp464Asn (B), GyrB-Asn502Asp (C) and GyrB-Glu504Val (D). R, L and SC denote relaxed, linear and supercoiled pBR322 DNA, respectively.  
doi:10.1371/journal.pntd.0001838.g004



**Figure 5. Increased IC<sub>50</sub>s and CC<sub>25</sub>s of FQs for mutant DNA gyrases.** IC<sub>50</sub>s and CC<sub>25</sub>s were calculated by the quinolone-inhibited supercoiling assay and FQ-mediated cleavage assay, respectively. Fold increase of each FQ for mutant DNA gyrases was plotted. (A) IC<sub>50</sub>s, (B) CC<sub>25</sub>s. Open, closed and hatched bar denotes the value for GyrB- GyrB-Asp464Asn, GyrB-Asn502Asp and GyrB-Glu504Val DNA gyrase, respectively. doi:10.1371/journal.pntd.0001838.g005

sensitivity pattern to those reported for mutant GyrB in *M. tuberculosis*. *M. leprae* GyrB-Asn502Asp DNA gyrase had lower FQ sensitivity than GyrB-Asp426Asn and GyrB-Glu504Val DNA gyrase, as has been shown in *M. tuberculosis* [15–18]. The high homology of the entire GyrB and full sequence match in QRDR between *M. leprae* and *M. tuberculosis* might lead to a similar tendency of FQ sensitivity. It is interesting that the Asp to Asn amino acid substitution in *E. coli* at position equivalent to 464 in *M. leprae* showed enhancing effect on CIP resistance [25] where Glu to Asp or Ala amino acid substitution in *Streptococcus pneumoniae* at position equivalent to 504 in *M. leprae* showed little or reducing effect on CIP resistance, respectively [26]. Overall QRDR structure of GyrB might affect the acquisition of FQ resistance.

IC<sub>50</sub>s of FQs were 8 to 40 times higher than the minimum inhibitory concentrations (MICs) in *M. tuberculosis* [17,18,22]. This non-proportionality presumably reflects basic differences in the cell-permeating properties and the accumulation of different FQs

[22]. We investigated the inhibitory effects of OFX, GAT, MXF, LVX and SIT against WT and mutant DNA gyrases. IC<sub>50</sub>s of OFX for WT DNA gyrase was 5.7 µg/ml (Table 2) and it seemed reasonable that OFX has been used by a single application of 400 to 600 mg for leprosy patients with a single lesion and two or three doses of 400 to 600 mg in combination with first-line drugs, DDS and RIF [27] for the treatment of patients with MDR leprosy. On the contrary, IC<sub>50</sub>s of OFX for GyrB-Asp464Asn, Asn502Asp and Glu504Val showed 9.5, 18.7 and 6.1 fold higher concentration comparing to WT DNA gyrase, respectively, and OFX seems not to have the ability to inhibit *M. leprae* with DNA gyrase with these mutations. On the other hand, the order of inhibitory activity was SIT>MXF>CIP>LVX>OFX. Namely, SIT most effectively inhibited WT and mutant DNA gyrases among five FQs. IC<sub>50</sub>s of SIT for WT was 0.5 µg/ml and the increase was 3.6-, 3.2- and 3.4-fold for GyrB-Asp464Asn, GyrB-Asn502Asp and GyrB-Glu504Val DNA gyrases, respectively. In addition, the maximum

serum concentration ( $C_{max}$ ) of OFX, SIT, CIP and LVX in 100 mg dosage was determined in clinical trials to be 0.95, 1.00, 1.33 and 1.22  $\mu\text{g/ml}$ , respectively [28–31], and that of MFX in 400 mg dose to be 4.13 [32]. SIT might strongly inhibit *M. leprae* carrying GyrB-Asp464Asn, Asn502Asp and Glu504Val DNA gyrase as well as that carrying GyrA-Ala90Val, Asp95Gly, and Asp95Asn [14,16,20]. Thus, SIT is a promising candidate for the treatment of leprosy caused by OFX-resistant *M. leprae* with these problematic gyrases. Although SIT is now only approved in Japan and mild gastrointestinal disorders as adverse reactions have been reported, our data in this study might encourage the use of SIT for OFX-resistant leprosy.

In conclusion, we revealed the contribution of Asp464Asn, Asn502Asp and Glu504Val amino acid substitution to reduced sensitivity to FQ in *M. leprae* by an *in vitro* assay. This suggested the possible emergence of FQ-resistant *M. leprae* carrying GyrB with these amino acid substitutions in the future. Hence we would like to propose the analysis of these amino acid substitutions in GyrB to detect FQ-resistant leprosy. Additionally, effectiveness of sitafloxacin to the mutant DNA gyrases suggested the potential use of this FQ for the treatment of ofloxacin resistant cases.

### Supporting Information

**Figure S1 SDS-PAGE analysis of purified *M. leprae* DNA gyrases.** The His-tagged recombinant DNA gyrases were over expressed in *E. coli* and purified by Ni-NTA affinity resin chromatography. Lanes: M: Protein marker (NEB), 1: WTGyrA, 2: WTGyrB, 3: GyrB-Asp464Asn, 4: GyrB-Asn502Asp, 5: GyrB-Glu504Val. 300 ng of each protein was loaded on 5–20% gradient polyacrylamide gel. (TIF)

**Figure S2 DNA supercoiling assay.** Supercoiling activities of WT DNA gyrase (A), DNA gyrases bearing GyrB-Asp464Asn (B), Asn502Asp (C) and Glu504Val (D) were analyzed. Relaxed pBR322 (0.3 mg) was incubated with GyrA (50 ng) or GyrB

(50 ng) or both. Lanes: 1: relaxed pBR322 alone, 2: relaxed pBR322 and ATP, 3: relaxed pBR322, ATP, GyrA and GyrB, 4: relaxed pBR322, ATP and GyrA, 5: relaxed pBR322, ATP and GyrB, 6: relaxed pBR322, GyrA and GyrB. (TIF)

**Figure S3 Inhibitory activities of (A) MXF, (B) SIT, (C) CIP and (D) LVX on supercoiling activities against *M. leprae* WT and mutant DNA gyrases.** Relaxed pBR322 DNA (0.3 mg) was incubated with 50 ng each of GyrA and GyrB in the absence or presence of the indicated concentration (in mg/ml) of three FQs. The reactions were stopped, and the DNA products were analyzed by electrophoresis on 1% agarose gel. R and SC denote relaxed and supercoiled pBR322 DNA, respectively. (TIF)

**Figure S4 DNA cleavage activity of (A) MXF, (B) SIT, (C) CIP and (D) LVX against *M. leprae* WT and mutant DNA gyrases.** Supercoiled pBR322 DNA (0.3 mg) was incubated with 50 ng each of GyrA and GyrB in the absence or presence of the indicated concentration (in mg/ml) of three FQs. The reactions were stopped, and the processed DNA products were analyzed by electrophoresis on 1% agarose gel. R, L and SC denote relaxed, linear and supercoiled pBR322 DNA, respectively. (TIF)

### Acknowledgments

We thank Ms. Haruka Suzuki, Ms. Yukari Fukushima and Ms. Aiko Ohnuma for their technical support.

### Author Contributions

Conceived and designed the experiments: TM MM CN YS. Performed the experiments: KY HK CN. Analyzed the data: KY CN YS. Contributed reagents/materials/analysis tools: KY TM MM. Wrote the paper: KY TM MM CN YS.

### References

- World Health Organization (2011) Weekly epidemiological record 2011; 86: 389–400.
- Ji B, Grosset JH (1990) Recent advances in the chemotherapy of leprosy. *Lepr Rev* 61: 313–329.
- Katoch VM (2002) Advances in the diagnosis and treatment of leprosy. *Expert Rev Mol Med* 4: 1–14.
- Cambau E, Perani E, Guillemin I, Jamet P, Ji B (1997) Multidrug resistance to dapsone, rifampicin, and ofloxacin in *Mycobacterium leprae*. *Lancet* 349:103–104.
- Kim SK, Lee SB, Kang TJ, Chae GT (2003) Detection of gene mutations related with drug resistance in *Mycobacterium leprae* from leprosy patients using touch-down (TD) PCR. *FEMS Immunol Med Microbiol* 36: 27–32.
- Maeda S, Matsuoka M, Nakata N, Kai M, Maeda Y, et al. (2001) Multidrug resistant *Mycobacterium leprae* from patients with leprosy. *Antimicrob Agents Chemother* 45: 3635–3639.
- Matsuoka M, Kashiwabara Y, Namisato M (2000) A *Mycobacterium leprae* isolate resistant to dapsone, rifampin, ofloxacin and sparfloxacin. *Int J Lepr Other Mycobact Dis* 68: 452–455.
- You E-Y, Kang TJ, Kim S-K, Lee S-B, Chae G-T (2005) Mutations in genes related to drug resistance in *Mycobacterium leprae* isolates from leprosy patients in Korea. *J Infect* 50: 6–11.
- Champoux JJ (2001) DNA topoisomerases: structure, function, and mechanism. *Annu. Rev. Biochem* 70: 369–413.
- Maruri F, Sterling TR, Kaiga AW, Blackman A, van der Hijden YF, et al. (2012) A systematic review of gyrase mutations associated with fluoroquinolone-resistant *Mycobacterium tuberculosis* and a proposed gyrase numbering system. *J Antimicrob. Chemother* 67: 819–831.
- Camus JC, Pryor MJ, Medigue C, Cole ST (2002) Re-annotation of the genome sequence of *Mycobacterium tuberculosis* H37Rv. *Microbiology* 148 (Pt10): 2967–2973
- Matsuoka M, Suzuki Y, Garcia IE, Fafutis-Morris M, Vargas-Gonzalez A, et al. (2010) Possible mode of emergence for drug-resistant leprosy is revealed by an analysis of samples from Mexico. *Jpn J Infect Dis* 63: 412–416.
- Matrat S, Cambau E, Jarlier V, Aubry A (2008) Are all the DNA gyrase mutations found in *Mycobacterium leprae* clinical strains involved in resistance to fluoroquinolones? *Antimicrob Agents Chemother* 52: 745–747.
- Yokoyama K, Kim H, Mukai T, Matsuoka M, Nakajima C, et al. (2012) Amino acid substitutions at position 95 in GyrA can add fluoroquinolone resistance to *Mycobacterium leprae*. *Antimicrob Agents Chemother* 56: 697–702.
- Aubry A, Veziris N, Cambau E, Trufflot-Pernot C, Jarlier V, et al. (2006) Novel gyrase mutations in quinolone-resistant and -hypersusceptible clinical isolates of *Mycobacterium tuberculosis*: functional analysis of mutant enzymes. *Antimicrob Agents Chemother* 50:104–112.
- Kim H, Nakajima C, Yokoyama K, Rahim Z, Kim YU, et al. (2011) Impact of the E540V amino acid substitution in GyrB of *Mycobacterium tuberculosis* on quinolone resistance. *Antimicrob Agents Chemother* 55: 3661–3667.
- Pantel A, Petrella S, Matrat S, Brossier F, Bastian S, et al. (2011) DNA gyrase inhibition assays are necessary to demonstrate fluoroquinolone resistance secondary to gyrB mutations in *Mycobacterium tuberculosis*. *Antimicrob Agents Chemother* 55: 4524–4529.
- Pantel A, Petrella S, Veziris N, Brossier F, Bastian S, et al. (2012) Extending GyrB QRDR definition in *Mycobacterium tuberculosis* DNA gyrase for assessing FQ resistance in *M. tuberculosis*. *Antimicrob Agents Chemother* 56: 1990–1996.
- Matsuoka M (2010) The history of *Mycobacterium leprae* Thai-53 strain. *Lepr Rev* 81: 137.
- Matrat S, Petrella S, Cambau E, Sougakoff W, Jarlier V, et al. (2007) Expression and purification of an active form of the *Mycobacterium leprae* DNA gyrase and its inhibition by quinolones. *Antimicrob Agents Chemother* 51: 1643–1648
- Walton L, Elwell LP (1988) *In vitro* cleavable-complex assay to monitor antimicrobial potency of quinolones. *Antimicrob Agents Chemother* 32: 1086–1089.
- Aubry A, Pan XS, Fisher LM, Jarlier V, Cambau E (2004) *Mycobacterium tuberculosis* DNA gyrase: interaction with quinolones and correlation with antimycobacterial drug activity. *Antimicrob Agents Chemother* 48:1281–1288.
- Piton J, Petrella S, Delatue M, Andre-Leroux G, Jarlier V, et al. (2010) Structural insights into the quinolone resistance mechanism of *Mycobacterium tuberculosis* DNA gyrase. *PLoS One* 5: e12245.

24. Shepard CC (1965) Temperature optimum of *Mycobacterium leprae* in mice. *J Bacteriol* 90: 1271–1275.
25. Heddle J, Maxwell A (2002) Quinolone-binding pocket of DNA gyrase: role of *GyrB*. *Antimicrobe Agents Chemother* 46: 1805–181
26. Pan XS, Gould KA, Fisher LM (2009) Probing the differential interactions of quinazolinone PD 0305970 and quinolones with gyrase and topoisomerase IV. *Antimicrobe Agents Chemother* 53: 3822–3831
27. Goto M, Nogami R, Hatano K, Okano Y, Ishii N, et al. (2006) Guideline for the treatment of hansen's disease in Japan (Second edition). *Jpn. J Leprosy* 75: 191–226.
28. Ichihara N, Tachizawa H, Tsumura M, Une T, Sato K (1984) Phase I study on DL-8280. *Chemotherapy* 32: 118–149.
29. Nakashima M, Uematsu T, Kanamaru M, Okazaki O, Hokusui H (1992) Phase I study of levofloxacin, (S)-(-)-ofloxacin. *Jpn J Clin Pharmacol Ther* 23: 515–520
30. Nakashima M, Uematsu T, Kosuge K, Umemura K, Hokusui H, et al. (1995) Pharmacokinetics and tolerance of DU-6859a, a new fluoroquinolone, after single and multiple oral doses in healthy volunteers. *Antimicrobe Agents Chemother* 39: 170–174.
31. Yasunaga K, Ueno K, Watanabe K, Azuma J (1997) Phase I studies of intravenous ciprofloxacin (BAY q 3939). *CLINICAL REPORT* 31: 2433–2466.
32. Ohnishi N, Toyoki T, Yoshikawa K, Hashizume K, Tanigawa T, et al. (2005) Safety, pharmacokinetics and influence on the intestinal flora of BAY 12-8039 (moxifloxacin hydrochloride) after oral administration in healthy male subjects. *Japanese Pharmacology & Therapeutics* 33: 1029–1045.

## Amino Acid Substitutions at Position 95 in GyrA Can Add Fluoroquinolone Resistance to *Mycobacterium leprae*

Kazumasa Yokoyama,<sup>a</sup> Hyun Kim,<sup>a</sup> Tetsu Mukai,<sup>b</sup> Masanori Matsuoka,<sup>b</sup> Chie Nakajima,<sup>a</sup> and Yasuhiko Suzuki<sup>a,c</sup>

Division of Global Epidemiology, Hokkaido University Research Center for Zoonosis Control, Sapporo, Japan<sup>a</sup>; Leprosy Research Center, National Institute of Infectious Diseases, Higashimurayama, Tokyo, Japan<sup>b</sup>; and JST/JICA-SATREPS, Tokyo, Japan<sup>c</sup>

**Amino acid substitutions at position 89 or 91 in GyrA of fluoroquinolone-resistant *Mycobacterium leprae* clinical isolates have been reported. In contrast, those at position 94 in *M. tuberculosis*, equivalent to position 95 in *M. leprae*, have been identified most frequently. To verify the possible contribution of amino acid substitutions at position 95 in *M. leprae* to fluoroquinolone resistance, we conducted an *in vitro* assay using wild-type and mutant recombinant DNA gyrases. Fluoroquinolone-mediated supercoiling activity inhibition assay and DNA cleavage assay revealed the potent contribution of an amino acid substitution of Asp to Gly or Asn at position 95 to fluoroquinolone resistance. These results suggested the possible future emergence of quinolone-resistant *M. leprae* isolates with these amino acid substitutions and the usefulness of detecting these mutations for the rapid identification of fluoroquinolone resistance in leprosy.**

Leprosy is a chronic human infectious disease caused by *Mycobacterium leprae* which may cause severe disabilities due to damage to the peripheral nerves (33). The World Health Organization (WHO) reported the global number of registered new cases in 2010 to be 228,474, while during 2009 it was 244,796 (37). Although the number of new cases detected globally fell by 16,322 (6.7%) during this period, new leprosy cases are still detected every year, mainly in Asia, Latin America, and Africa (21, 37). In the 1980s, the WHO introduced multidrug therapy (MDT), composed of dapsone (DDS), rifampin (RIF), and clofazimine (36). Recently, fluoroquinolones (FQs), especially ofloxacin (OFX), have been recommended for the treatment of leprosy with a single lesion. The emergence of multidrug-resistant (MDR) leprosy, resistant to both DDS and RIF owing to therapeutic failure or low compliance, has been reported (17, 29), and FQs are thought to be important. For appropriate treatment, early assessment of drug susceptibility is essential; however, *M. leprae* cannot be cultivated on artificial media and a drug susceptibility test depending on *in vitro* growth is not available. Consequently, antibiotic susceptibility tests have relied on the mouse footpad leprosy model, requiring 8 to 12 months because of the slow growth of *M. leprae* (18). Recently, genetic analysis of drug-resistant *M. leprae* substantiated the correlation of DDS, RIF, and OFX resistance with mutations in *folP1*, encoding dihydropteroate synthetase (5, 15, 19, 23–25, 35); *rpoB* (4, 6, 12, 19, 23–25, 33), encoding the beta subunit of RNA polymerase; and *gyrA*, encoding the A subunit of DNA gyrase (4, 19, 24, 26, 40), respectively. Among these, data for *folP1* in *M. tuberculosis* are not available as DDS is not used for the treatment of tuberculosis. Mutations in *rpoB* observed in *M. leprae* showed good agreement with those obtained from RIF-resistant *M. tuberculosis*. In contrast, the distribution of mutations in *gyrA* of FQ-resistant *M. tuberculosis* was distinct from that in *gyrA* of OFX-resistant *M. leprae* (Fig. 1). Namely, amino acid substitutions at position 94 in GyrA were found in approximately half of FQ-resistant *M. tuberculosis* isolates, whereas no amino acid substitutions at position 95, equivalent to position 94 in *M. tuberculosis*, have been reported in *M. leprae*, and 11 cases with amino acid substitutions at position 91, equivalent to position 94 in *M. tuberculosis*, were reported from a total of six countries (4, 19, 24, 26, 40). Thus, elucida-

tion of the contribution of amino acid substitutions at position 95 of GyrA in *M. leprae* to FQ resistance is important for the gene-based detection of fluoroquinolone resistance.

FQs inhibit type II DNA topoisomerases, DNA gyrase, and topoisomerase IV, which play crucial roles in DNA replication during cell division (8). As *M. leprae* has only DNA gyrase, this is the sole target of FQs. DNA gyrase, consisting of two GyrA and two GyrB subunits, catalyzes the negative supercoiling of the circular bacterial chromosome by cleaving double strands and passing the enwrapped DNA, followed by resealing the double strands (8, 13). To reveal the significance of amino acid substitution at position 95 to FQ resistance, we conducted the FQ-mediated supercoiling activity inhibition assay and DNA cleavage assay using recombinant DNA gyrases having an amino acid substitution in GyrA at position 95, Asp to Gly (GyrA-Asp95Gly) or Asp to Asn (GyrA-Asp95Asn). These mutations are frequently found in FQ-resistant *M. tuberculosis* strains (1, 7, 9, 10, 32, 34, 39) but not in FQ-resistant *M. leprae* strains.

### MATERIALS AND METHODS

**Materials.** The Thai-53 strain of *M. leprae* (22), maintained at the Leprosy Research Center, National Institute of Infectious Diseases (Tokyo, Japan), was used to prepare *M. leprae* DNA. *Escherichia coli* strains TOP-10 (Life Technologies Corp., Carlsbad, CA), Rosetta-gami 2, and BL21(DE3)(pLysS) (Merck KGaA, Darmstadt, Germany) were used for cloning and protein expression. GyrA and GyrB expression plasmids were constructed on the basis of pET-20b (+) (Merck KGaA). OFX and gatifloxacin (GAT) were purchased from LKT Laboratories, Inc. (St. Paul, MN); moxifloxacin (MXF) was from Toronto Research Chemicals Inc. (Toronto, Ontario, Canada). Sitafloxacin (SIT) was a gift from Daiichisankyo Pharmaceutical, Co., Ltd. (Tokyo, Japan). Ampicillin was purchased from Meiji Seika Pharma, Ltd. (Tokyo, Ja-

Received 10 October 2011 Returned for modification 1 November 2011

Accepted 11 November 2011

Published ahead of print 21 November 2011

Address correspondence to Yasuhiko Suzuki, [suzuki@cvc.hokudai.ac.jp](mailto:suzuki@cvc.hokudai.ac.jp).

Supplemental material for this article may be found at <http://aac.asm.org/>.

Copyright © 2012, American Society for Microbiology. All Rights Reserved.

doi:10.1128/AAC.05890-11



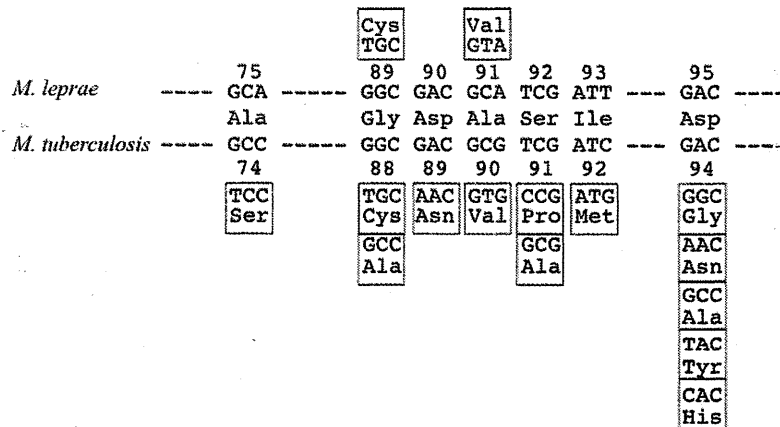


FIG 1 Nucleotide substitutions encoding the quinolone resistance-determining region in *gyrA* of WT and FQ-resistant *M. leprae* and *M. tuberculosis*. Nucleotide sequences encoding the quinolone resistance-determining region of WT *M. leprae* and *M. tuberculosis* *GyrA* were aligned with the amino acid sequence at the corresponding positions indicated by the numbers. Altered amino acids and the corresponding nucleotide substitutions of *M. leprae* and *M. tuberculosis* are placed above and below WT sequences, respectively.

pan). Oligonucleotide primers were synthesized by Life Technologies Corp. Restriction enzymes were obtained from New England BioLabs, Inc. (Ipswich, MA). The supercoiling assay kit and supercoiled and relaxed pBR322 DNA were purchased from John Innes Enterprises Ltd. (Norwich, United Kingdom).

**Construction of recombinant wild-type (WT) and mutant DNA gyrase expression plasmids.** DNA gyrase expression vectors were constructed basically as previously described (16), and Fig. 2 presents an overview of the procedure. The sequences of the primers used in the study

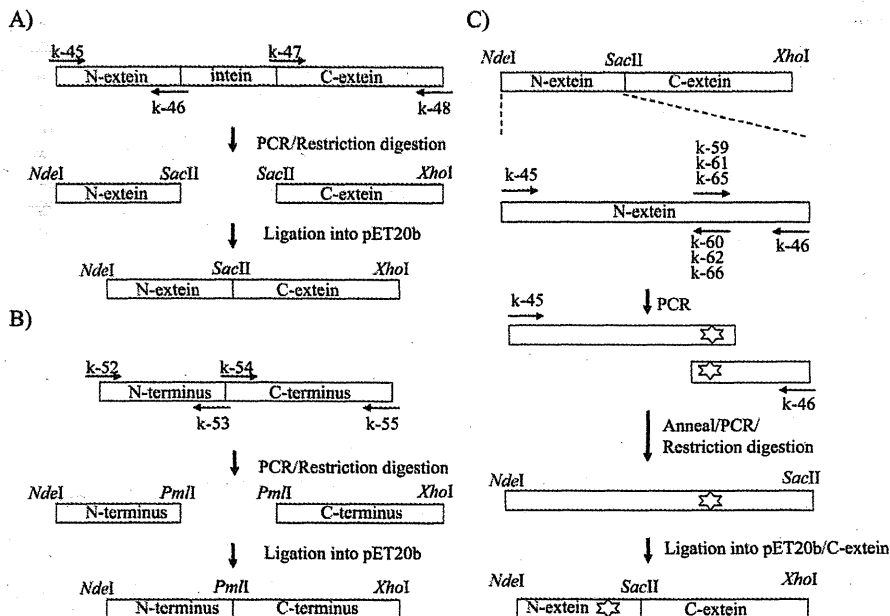


FIG 2 Construction of WT and mutant DNA gyrase expression plasmid. (A) DNA fragments encoding N-extein (amino acids 1 to 130) and C-extein of *GyrA* (amino acids 125 to 830) were amplified by PCR with primer pairs k-45/k-46 and k-47/k-48 (Table 1), respectively. Similarly, those encoding the N-terminal (amino acids 1 to 428) and C-terminal (amino acids 424 to 679) regions of *GyrB* were amplified with primer pairs k-52/k-53 and k-54/k-55 (Table 1), respectively. PCR products encoding N-extein and C-extein of *GyrA* were digested by *NdeI*-*SacII* and *SacII*-*XhoI*, respectively, and introduced simultaneously into *NdeI*-*XhoI*-digested plasmid pET-20b (+). (B) DNA fragments encoding the N-terminal and C-terminal regions of *GyrB* were digested by *NdeI*-*PmaCI* and *PmaCI*-*XhoI*, respectively, and introduced into pET20b as described above. (C) Primer pairs consisting of primer k-45 and primer k-60, k-62, or k-66 (Table 1) were used for amplifying the DNA fragment encoding the N-terminal portion (amino acids 1 to 94) of N-extein carrying Ala91Val, Asp95Gly, and Asp95Asn, respectively. Primer pairs consisting of primer k-46 and primer k-59, k-61, or k-65 (Table 1) were used for amplifying the DNA fragment encoding the C-terminal portion (amino acids 88 to 130) of N-extein carrying Ala91Val, Asp95Gly, and Asp95Asn, respectively. To complete the N-extein-encoding cassette, DNA fragments encoding the N-terminal and C-terminal regions of N-extein of *GyrA* were annealed and reamplified by PCR using the primer pair k-45/k-46. The mutated *gyrA*-N cassettes were digested with *NdeI* and *SacII* restriction endonucleases and ligated into the expression plasmid containing WT *gyrA* C-extein DNA fragment digested by the same enzymes.

TABLE 1 Nucleotide sequences of primers used in PCR

Primer name	Primer sequence (nucleotide positions) <sup>a</sup>
k-45	5'-GGCATATGACTGATATCACGCTGCCACCAG-3' (1-25)
k-46	5'-ATAACGCATCGCCGCGGGTGGGTCATTACC-3' (361-390)
k-47	5'-CACCCGCGGCGATGCGTTATACCGAGGCTCGGCTTACTC-3' (371-410)
k-48	5'-GGCTCGAGTTAATGATGATGATGATGATGACCGACACCGCCGTCGG-3' (2471-2490)
k-52	5'-GGCATATGGCTGCCAGGAAG-3' (1-18)
k-53	5'-CTAAGTCACGTCGTTACGTCAGCTATTTC-3' (1259-1288)
k-54	5'-CGTAAAGCACGTGAGTTAGTGCCTCGAAAAAGTGCC-3' (1270-1305)
k-55	5'-GGCTCGAGCTAATGATGATGATGATGATGGACATCCAGGAAACGAACATCC-3' (2013-2037)
k-59	5'-GCACGCGACGTCGATTTATG-3' (261-283)
k-60	5'-CATAAATCGACACGTCGCCGTC-3' (261-283)
k-61	5'-CATCGATTTATGGCAGTTAGTGC-3' (272-295)
k-62	5'-GCACCTAACGTCGCATAAATCGATG-3' (272-295)
k-65	5'-CATCGATTTATAACACGTTAGTGC-3' (272-295)
k-66	5'-GCACCTAACGTTATAAATCGATG-3' (272-295)

<sup>a</sup> Six-histidine tag codons are underlined, and mutated codons are shown in bold type.

are shown in Table 1. All PCRs were carried out in a thermal cycler (Applied Biosystems) under the following conditions: predenaturation at 98°C for 2 min; 35 cycles of denaturation at 98°C for 10 s, annealing at 50 to 60°C for 15 s, and extension at 68°C for 1 to 2.5 min; and then a final extension at 68°C for 2 min. The nucleotide sequences of the DNA gyrase genes in the plasmids were confirmed using a BigDye Terminator (version 3.1) cycle sequencing kit (Life Technologies Corp.) and an ABI Prism 3130xl genetic analyzer (Life Technologies Corp.) according to the manufacturer's protocol.

**Expression and purification of recombinant DNA gyrase.** DNA gyrase subunits were purified as previously described (2, 3, 16, 20, 21, 31). Expression plasmids carrying the *gyrA* (WT and mutants) and WT *gyrB* genes of *M. leprae* were transformed into *E. coli* Rosetta-gami 2 and BL21(DE3)(pLysS), respectively. Expression of GyrA and GyrB was induced with the addition of 1 mM isopropyl- $\beta$ -D-thiogalactopyranoside

(Wako Pure Chemical Industries Ltd., Tokyo, Japan), followed by further incubation at 14°C for 16 h. The recombinant DNA gyrase subunit in the supernatant of the sonication lysate (by Sonifier 250; Branson, Danbury, CT) was purified by nickel-nitrilotriacetic acid (Ni-NTA) agarose resin (Life Technologies Corp.) column chromatography. The protein fractions were examined by sodium dodecyl sulfate-polyacrylamide gel electrophoresis (SDS-PAGE).

**DNA supercoiling activities and inhibition by FQs.** ATP-dependent and quinolone-inhibited DNA supercoiling assays were carried out as previously described (2, 3, 16, 20, 21, 31) with the following modifications. DNA supercoiling activity was examined with a reaction mixture (total volume, 30  $\mu$ l) consisting of DNA gyrase reaction buffer, relaxed pBR322 DNA (300 ng), and purified GyrA and GyrB (50 ng each) subunits. Reactions were performed at 30°C for 1.5 h and stopped by adding an equal volume of chloroform-isoamyl alcohol (24:1 mixture) and 3  $\mu$ l of 10 $\times$  DNA loading dye. The total reaction mixtures were subjected to electrophoresis in a 1% agarose gel in 1 $\times$  Tris-borate-EDTA (TBE) buffer, followed by ethidium bromide (0.7  $\mu$ g/ml) staining. Supercoiling activity was evaluated by tracing the brightness of the bands with the software ImageJ (<http://rsbweb.nih.gov/ij/>). Gyrase bearing an Ala91Val amino acid substitution in GyrA was used as a positive control for all assays (20). The inhibitory effect of FQs on DNA gyrases was assessed by determining the drug concentrations required to inhibit the supercoiling activity of the enzyme by 50% (IC<sub>50</sub>s). All enzyme assays were performed at least three times to confirm reproducibility.

**Quinolone-mediated DNA cleavage assay.** DNA cleavage assays were carried out as previously described (16, 20, 21, 31). The reaction mixture (total volume, 30  $\mu$ l) contained DNA gyrase reaction buffer, recombinant DNA gyrase subunits (50 ng), supercoiled pBR322 DNA (300 ng), and 2-fold serially increasing concentrations of FQs. After incubation for 2 h at 30°C, 3  $\mu$ l of 2% SDS and 3  $\mu$ l proteinase K (1 mg/ml) were added to the reaction mixture. After subsequent incubation for 30 min at 30°C, reactions were stopped by the addition of 3  $\mu$ l of 0.5 mM EDTA, 30  $\mu$ l chloroform-isoamyl alcohol (24:1 mixture), and 3  $\mu$ l of 10 $\times$  DNA loading dye. The total reaction mixtures were subjected to electrophoresis in 0.8% agarose gels in 1 $\times$  TBE buffer, followed by ethidium bromide staining. The extent of DNA cleavage was quantified with ImageJ, and the quinolone concentrations required to induce 25% of the maximum DNA cleavage (CC<sub>25</sub>s) were determined.

**Temperature sensitivity of *M. leprae* DNA gyrase.** The reactions with mixtures (total volume, 30  $\mu$ l) consisting of DNA gyrase reaction buffer, relaxed pBR322 DNA (300 ng), and recombinant DNA gyrase subunits

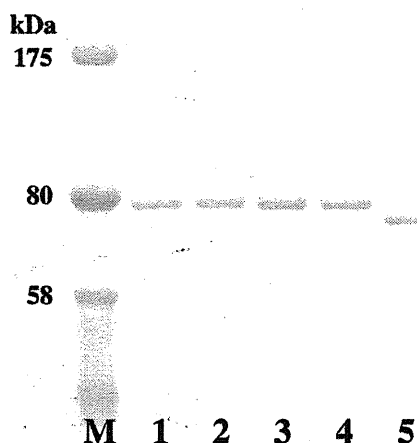


FIG 3 SDS-PAGE analysis of purified *M. leprae* DNA gyrases. The His-tagged recombinant DNA gyrases were overexpressed in *E. coli* and purified by Ni-NTA affinity resin chromatography. Lanes: M, protein marker (NEB); 1, WT GyrA; 2, GyrA-Ala91Val; 3, GyrA-Asp95Gly; 4, GyrA-Asp95Asn; 5, WT GyrB. Three hundred nanograms of each protein was loaded onto a 5 to 20% gradient polyacrylamide gel.

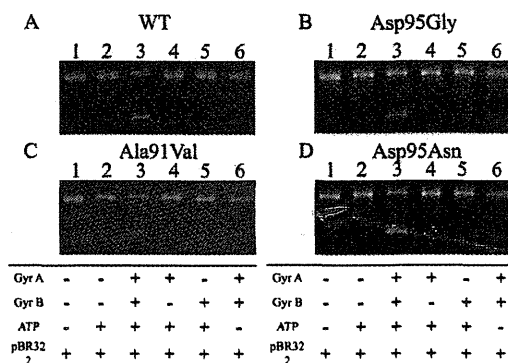


FIG 4 DNA supercoiling assay. Supercoiling activities of WT DNA gyrase (A) and DNA gyrases bearing GyrA-Ala91Val (B), GyrA-Asp95Gly (C), and GyrA-Asp95Asn (D) were analyzed. Relaxed pBR322 (0.3  $\mu$ g) was incubated with GyrA (50 ng) or GyrB (50 ng), or both. Lanes: 1, relaxed pBR322 alone; 2, relaxed pBR322 and ATP; 3, relaxed pBR322, ATP, GyrA, and GyrB; 4, relaxed pBR322, ATP, and GyrA; 5, relaxed pBR322, ATP, and GyrB; 6, relaxed pBR322, GyrA, and GyrB.

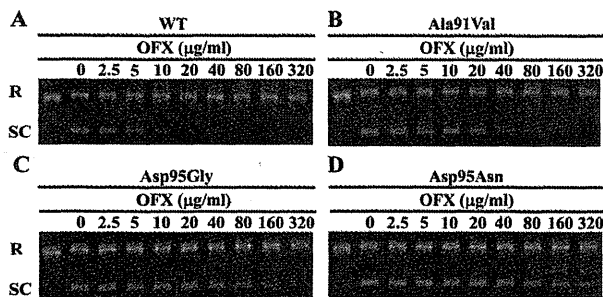


FIG 5 OFX-inhibited DNA supercoiling assay. Relaxed pBR322 (0.3 µg) was incubated with GyrA (50 ng) and GyrB (50 ng) in the presence of the indicated concentration of OFX. Quinolone-inhibited supercoiling activity assay was performed with combinations consisting of WT GyrB-WT GyrA (A), GyrA-Ala91Val (B), GyrA-Asp95Gly (C), and GyrA-Asp95Asn (D). R and SC, relaxed and supercoiled pBR322 DNA, respectively.

(50 ng) were run at 25, 30, 33, 37, and 42°C for 1.5 h. Supercoiling activities of recombinant DNA gyrases were evaluated at each reaction temperature as described above.

**RESULTS**

**Construction and purification of recombinant His-tagged GyrA and GyrB proteins.** DNA fragments, including the *gyrA* and *gyrB* genes, were successfully amplified from *M. leprae* Thai-53 strain DNA and inserted in frame downstream of a T7 promoter in pET-20b (+). GyrA and GyrB were expressed as C-terminal hexahistidine-tagged proteins for ease of purification, as the His tag has been shown not to interfere with the catalytic functions of GyrA and GyrB (2, 3, 16, 20, 21, 31). Expressed recombinant WT and mutant DNA gyrase subunits were purified as 0.3 to 1.5 mg soluble His-tagged 80-kDa protein of GyrA and 75-kDa protein of GyrB from 500-ml cultures. The purity of the recombinant proteins was confirmed by SDS-PAGE (Fig. 3). All of the recombinant proteins were obtained with high purity (>95%).

**DNA supercoiling activities.** Combinations of GyrA WT, Ala91Val, Asp95Gly, or Asp95Asn and WT GyrB subunits were examined for DNA supercoiling activities using relaxed pBR322 DNA as a substrate in the presence or absence of ATP (Fig. 4). DNA supercoiling activities were observed in the presence of ATP and recombinant DNA gyrase subunits (Fig. 4A to D, lane 3), while neither subunit alone exhibited DNA supercoiling activity (Fig. 4A to D, lanes 4 and 5). In addition, no supercoiling activity was observed when ATP was omitted from the reaction mixture (Fig. 4A to D, lane 6).

**Inhibition of DNA gyrase activities by FQs.** The IC<sub>50</sub>s of FQs were determined using the quinolone-inhibited DNA supercoiling assay (Fig. 5). Representative data showing the inhibitory ef-

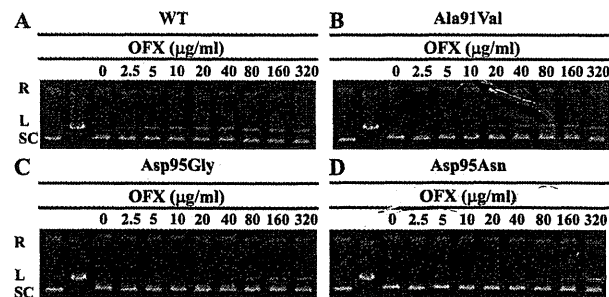


FIG 6 OFX-mediated DNA cleavage assay. Supercoiled pBR322 (0.3 µg) was incubated with GyrA (50 ng) and GyrB (50 ng) in the presence of the indicated concentration of OFX. DNA cleavage assay was performed with combinations consisting of WT GyrB-WT GyrA (A), GyrA-Ala91Val (B), GyrA-Asp95Gly (C), and GyrA-Asp95Asn (D). R, L, and SC, relaxed, linear, and supercoiled pBR322 DNA, respectively.

fects of OFX against DNA gyrase are shown in Fig. 5, and data for other FQs are presented in Fig. S1 in the supplemental material. IC<sub>50</sub>s of each FQ against WT and mutant DNA gyrases are summarized in Table 2. Each FQ showed dose-dependent inhibition, with IC<sub>50</sub>s ranging from 0.4 to 262.3 µg/ml. DNA gyrases bearing GyrA-Asp95Gly and -Asp95Asn showed significantly higher IC<sub>50</sub>s to quinolones (Table 2; Fig. 5; see Fig. S1 in the supplemental material) than WT gyrase (Table 2). These DNA gyrases also showed higher resistance than DNA gyrase bearing GyrA-Ala91Val, which was simultaneously analyzed as a positive control for resistance to FQs. Inhibitory effects of FQs were ranked SIT > GAT > MXF > OFX in all DNA gyrases.

**FQ-mediated DNA-cleavable complex formation.** The CC<sub>25</sub>s of FQs were determined. Figure 6 shows the result of a DNA cleavage assay using OFX, and Fig. S2 in the supplemental material presents the results using GAT, MXF, and SIT. Table 2 summarizes the CC<sub>25</sub>s of each DNA gyrase. DNA gyrases bearing GyrA-Asp95Gly and -Asp95Asn showed significantly higher CC<sub>25</sub>s to quinolones than WT gyrase (Table 2). These DNA gyrases also showed higher CC<sub>25</sub>s than gyrase bearing GyrA-Ala91Val (Table 2). Effects on cleavable complex formation were ranked SIT > GAT > MXF > OFX in all DNA gyrases.

**Temperature sensitivity of *M. leprae* DNA gyrase.** Figure 7 shows the effects of temperature on DNA gyrase activities. The highest DNA supercoiling activities were observed at 33°C in all DNA gyrases. WT and GyrA-A91V DNA gyrases showed reduced DNA supercoiling activities at 37°C, whereas Gyr-Asp95Gly and Asp95Asn DNA gyrases maintained activities comparable to those at 33°C. No supercoiling activities were observed in any of the DNA gyrases at 42°C.

TABLE 2 IC<sub>50</sub>s and CC<sub>25</sub>s of FQs against WT and mutant DNA gyrases<sup>a</sup>

Drug	IC <sub>50</sub>				CC <sub>25</sub>			
	WT	Ala91Val	Asp95Gly	Asp95Asn	WT	Ala91Val	Asp95Gly	Asp95Asn
OFX	6.8 ± 0.8	39.4 ± 15.5 (5.8)	161.2 ± 44.2 (23.7)	262.3 ± 105.8 (38.6)	7.3 ± 0.5	75.5 ± 16.8 (10.1)	240.5 ± 30.7 (32.1)	269.5 ± 76.5 (35.9)
GAT	1.0 ± 0.1	3.1 ± 0.7 (3.1)	7.5 ± 1.6 (7.5)	13.8 ± 1.6 (13.8)	1.1 ± 0.2	4.3 ± 0.2 (3.9)	15.6 ± 3.6 (14.2)	13.5 ± 3.1 (12.3)
MXF	1.5 ± 0.3	5.2 ± 1.0 (3.5)	21.5 ± 4.7 (14.3)	34.7 ± 3.1 (23.1)	1.0 ± 0.1	4.5 ± 1.0 (4.5)	25.5 ± 3.7 (25.5)	20.8 ± 5.0 (20.8)
SIT	0.4 ± 0.0	1.0 ± 0.2 (2.5)	2.2 ± 0.5 (5.5)	3.9 ± 0.6 (9.8)	0.3 ± 0.0	0.9 ± 0.0 (3.0)	2.2 ± 0.6 (7.3)	2.3 ± 0.4 (7.7)

<sup>a</sup> IC<sub>50</sub>s and CC<sub>25</sub>s are in µg/ml, and data in parentheses represent the fold increase compared to WT.

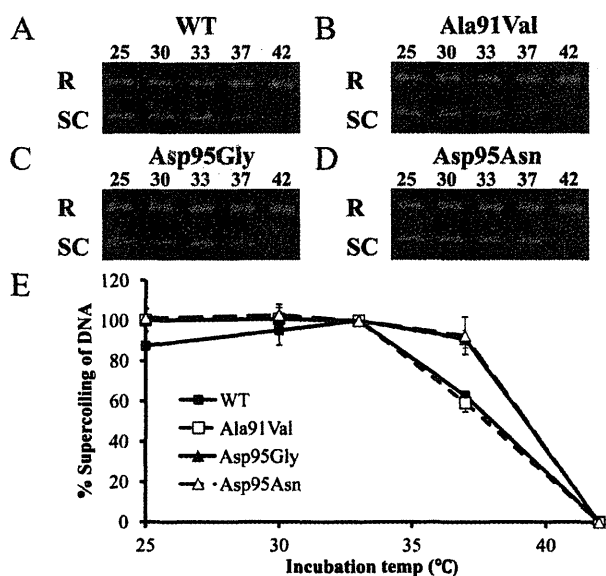


FIG 7 Temperature-dependent DNA supercoiling activity of DNA gyrases. Relaxed pBR322 (0.3  $\mu$ g) was incubated with WT GyrB-WT GyrA (A), GyrA-Ala91Val (B), GyrA-Asp95Gly (C), and GyrA-Asp95Asn (D) at the temperatures (in °C) indicated above the lanes. The proportion of supercoiled DNA compared to that of WT DNA gyrase at 33°C is plotted for each incubation temperature.

## DISCUSSION

Mutations in the *gyrA* gene of quinolone-resistant *M. leprae* clinical isolates have predominantly been reported at codon 91, and a smaller number have been reported at codon 89 (4, 19, 24, 26, 40). Amino acid substitutions at other positions have not been reported, in strong contrast to the substitutions reported in *M. tuberculosis*, with predominant mutations in codon 94 (1, 7, 9, 10, 32, 34, 39), equivalent to codon 95 in *M. leprae* (Fig. 1). This study aimed to obtain basic data for the rapid detection of FQ-resistant leprosy by elucidating the correlation between mutations at codon 95 and quinolone resistance.

To explain the discrepancy described above, we first hypothesized that amino acid substitution at position 95 in GyrA of *M. leprae* has less of an influence on FQ resistance. Hence, we carried out a quinolone-mediated supercoiling activity inhibition assay and DNA cleavage assay at 30°C, the optimal temperature of *M. leprae* growth, using recombinant DNA gyrases and calculated  $IC_{50}$ s and  $CC_{25}$ s of four FQs, OFX, MXF, GAT, and SIT. The DNA gyrase bearing GyrA-Ala91Val, used as a control, exhibited resistance, having approximately 2- to 10-fold higher  $IC_{50}$ s and  $CC_{25}$ s of FQs than WT DNA gyrase, as has been reported previously (20, 21). Interestingly, DNA gyrases bearing GyrA-Asp95Gly or -Asp95Asn showed resistance, having approximately 5- to 40-fold higher  $IC_{50}$ s and  $CC_{25}$ s of FQs than WT DNA gyrase (Table 2). Namely, amino acid substitution from Asp to Gly or Asn at position 95 added higher resistance to DNA gyrase than that from Ala to Val at position 91. This was similar to the observation in *M. tuberculosis* (2, 3). These results suggested that a possible property of Asp95Gly and Asp95Asn amino acid substitutions in GyrA is to give higher FQ resistance to DNA gyrase in *M. leprae*.

We then hypothesized that amino acid substitutions at posi-

tion 95 place a disadvantage on the enzymatic property of DNA gyrases, especially lower or abolished activity at higher temperatures, and thus, we conducted a DNA supercoiling assay at various temperatures: 25, 30, 33, 37, and 42°C. DNA supercoiling activities of WT and GyrA-Ala91Val DNA gyrase showed a similar temperature dependence, with the highest activity being at 25 to 33°C, reduced activity occurring at 37°C, and activity being completely abolished at 42°C. In contrast, DNA gyrases bearing GyrA-Asp95Gly or -Asp95Asn maintained their activities even at 37°C. Our hypothesis was rejected by these data.

The influence of the clear usage of FQs for the treatment of leprosy and tuberculosis might solve this question. For leprosy patients with a single lesion, a single application of 400 to 600 mg of OFX is used. For the treatment of MDR leprosy, two or three doses of 400 to 600 mg in combination with first-line drugs DDS and RIF (11) are applied. In contrast, for tuberculosis, OFX is taken twice daily at 400 mg each time with first-line drugs such as isoniazid and rifampin for several months (11, 36). The maximum serum concentration ( $C_{max}$ ) of OFX has been reported to show a dose-dependent increase. The  $C_{max}$ s achieved with administration of 100 mg, 300 mg, and 600 mg of OFX in humans were 1.00, 2.81, and 6.81  $\mu$ g/ml, respectively (14). The blood concentration of OFX is low in leprosy patients and is maintained at a high level in tuberculosis patients because of the treatment regimen. Thus, *M. leprae* carrying DNA gyrase with lower resistance, such as GyrA-Ala91Val, might be predominantly selected for various reasons in leprosy patients, whereas GyrA-Asp94Gly or -Asp94Asn is predominantly found in *M. tuberculosis*-infected patients (1, 7, 9, 10, 32, 34, 39); however, the possible emergence in the future of highly FQ-resistant *M. leprae* having an amino acid substitution at position 95 cannot be rejected, especially when MDR leprosy is treated by repeated administration of FQs.

We investigated the inhibitory effects of OFX, GAT, MXF, and SIT against WT and mutant DNA gyrases.  $IC_{50}$ s of OFX for WT and GyrA-Ala91Val, -Asp95Gly, and -Asp95Asn DNA gyrases were 6.8, 39.4, 161.2, and 262.3  $\mu$ g/ml, respectively (Table 2). The order of FQ inhibitory activity was SIT > GAT > MXF > OFX. OFX does not have the ability to inhibit *M. leprae* with DNA gyrase carrying GyrA-Asp95Gly or -Asp95Asn. The  $IC_{50}$  of SIT was the lowest of the four quinolones, with  $IC_{50}$ s of 0.4, 1.0, 2.2, and 3.9  $\mu$ g/ml for WT, A91V, D95G, and D95N gyrases, respectively. As the  $C_{max}$ s of OFX, GAT, MXF, and SIT at the 100-mg dosage were determined in clinical trials to be 1.00, 0.87 to 5.41, 4, and 0.3 to 1.9  $\mu$ g/ml, respectively (14, 27, 28, 30), SIT might strongly inhibit *M. leprae* carrying GyrA-Ala91Val DNA gyrase and be a promising candidate for the treatment of the majority of cases of FQ-resistant leprosy.

In conclusion, we revealed the contribution of the GyrA-Asp95Gly and -Asp95Asn amino acid substitutions to FQ resistance in *M. leprae* by an *in vitro* assay. This suggested the possible emergence in the future of FQ-resistant *M. leprae* carrying GyrA with these amino acid substitutions, although further analysis is needed to clarify a direct relationship to *in vivo* resistance. Hence, we would like to propose analysis for these amino acid substitutions to detect FQ-resistant leprosy.

## ACKNOWLEDGMENTS

We thank Haruka Suzuki, Yukari Fukushima, and Aiko Ohnuma for their technical support.

This work was supported by grants from the U.S.-Japan Cooperative